KENWOOD

オーディオビデオコントロールセンター

RV-7000

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、製品を安全に正しくお使いいただくため、取扱説明書の「安全上のご注意」、本文をよくお読みのうえ、説明の通りお使いください。
取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

ユーザー登録について
カスタマーサポートの向上のため、ユーザー登録（My-Kenwood）をお願いしています。
弊社ホームページ内で登録ができます。
なお、詳細につきましては、利用規約等を事前にお読みください。

http://jp.my-kenwood.com

© B60-5829-08/00 (J)

もくじ

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

ご使用になる前に

ご使用になる前に

接続のしかた

本機の設定

音楽や映画を鑑賞する

臨場感を楽しむ

ラジオ放送を聴く

音を調節する

便利な機能

故障かな？と思ったら

本機の特長

■ HDMI™(High-Definition Multimedia Interface)リピーター機能

ハイビジョン映像と最新の高音質オーディオ信号を楽しめるHDMIインターフェースに対応。ブルーレイディスクなどに記録された3D映像を含む高画質な映像や、ドルビーTrueHD、DTS-HDマスターオーディオ、マルチチャンネルPCMなどの高音質な音声を楽しむことができます。

■ 高音質音楽再生「ピュアオーディオモード」

音楽信号をより忠実に再現する高音質再生機能です。ディスプレイを消灯し、アナログビデオ回路をオフすることによってオーディオ回路への干渉を抑えます。また、音楽信号に合わせて最適なリッスンモードを自動的に選択します。

■ 本格的なホームシアターサウンド

音声入力端子		入力信号
HDMI		Dolby TrueHD
		Dolby Digital Plus
		DTS-HD Master Audio
		DTS-HD High Resolution Audio
		PCM（マルチチャンネル）
		DSD
	デジタル入力（光/同軸）	Dolby Digital EX
		Dolby Digital
		DTS-ES (Discrete, Matrix)
		DTS 96/24
		DTS
		PCM (2 チャンネル)
		AAC
音声入力		アナログ

リッスンモード
Dolby Pro Logic IIz (Height)
Dolby Pro Logic IIx (Movie, Music, Game)
Dolby Pro Logic II (Movie, Music, Game)
Dolby EX
Dolby Pro Logic
DTS Neo:6 (Cinema, Music)
DTS Neo:6
Stereo
Virtual Surround

■ リップシンク機能

映像と音声のずれを補正することができます。また、再生機器、本機、およびテレビをすべてHDMIで接続している場合には、自動補正することもできます。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。記載している表示・図記号についての内容を良く理解してから本文をお読みになり、必ずお守りください。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用･故障･その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、本文での説明と重複する内容もあります）

⚠警告

異常のときは

異常が起きた場合は電源プラグを抜く
内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください

電源コード・プラグについて

電源コードを傷つけない
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となります。
電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

設置について

交流 100 ボルトの電圧で接続する
この機器は、交流 100 ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない
風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない
水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の上にろうそくやランプなど火のついたものを置かない
本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

使用について

水をかけたりぬらしたりしない
火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない
感電の原因となります。

お手入れ

電源プラグを定期的に清掃する
電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

⚠注意

異常のときは

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースが壊れたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

電源コード・プラグについて

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

設置について

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湿気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉め切った自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、スピーカーコード、その他接続コード類をすべてを外す。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

⚠注意

使用について

長期間使用しないときは電源プラグを抜く
旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。火災の原因となることがあります。

機器の内部に異物を入れない
機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。火災・感電の原因となることがあります。

機器のケースを開けたり改造したりしない
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となることがあります。点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

ディスク挿入口に手を入れない
手がはさまれて、けがの原因となることがあります。特にお子さまにはご注意ください。

レーザー光源をのぞき込まない
レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

ひび割れディスクは使わない
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。ディスクは機器内で高速に回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

電池について

電池の取り扱いに注意する
次のことを、必ず守ってください。
·極性表示（プラス”＋”とマイナス”－”の向き）に注意し、表示どおりに入れる。
· 指定の電池を使用する。
· 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
· 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
· 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
· 充電池と乾電池を混ぜて使用しない。
· 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。
電池は誤った使い方をすると、破裂、液もりにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。
液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。
万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

音量について

はじめから音量を上げすぎない
突然大きな音が出て、聴力傷害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聴かない
聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

お手入れ

お手入れの際は電源プラグを抜く
お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。感電の原因となることがあります。

定期的に内部の点検、清掃をする
3 年に 1 度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄のケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

取扱説明書の読みかた

本書では主にリモコンで操作する説明を記載しています。本体でも操作できる機能については、説明の冒頭にイラストで示しています。
本体の[VOLUME CONTROL]ツマミは、左右に回して使います。

スピーカーの設定（詳細設定）

詳細設定では、聴いている部屋の環境に応じてレシーバーの性能を最大限に楽しむことができます。

最高のリスニング環境をつくるために、ケンウッドでは聴いている位置で設定を行うことを推奨します。

SETUP
MULTI CONTROL ▼/▲

操作で使うキーやツマミを紹介しています。

リモコンのみで操作する機能の説明には、リモコンのイラストだけを記載しています。また本体のみで操作する場合は本体のイラストだけを記載しています。

スピーカー構成 –"SP SETUP"–

スピーカー有無やスピーカーのサイズを選びます。

1 詳細設定モードに入る。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"SP SETUP"を選ぶ。

SP SETUP

[SETUP]を押す。

2 各スピーカーの有無や大きさを選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でスピーカーを選び、有無や大きさを選ぶ。

SUBW ON

[SETUP]を押す。

上記の操作を繰り返してすべてのスピーカーの設定をします。

操作するキーには、カッコ[ ]を付けています。

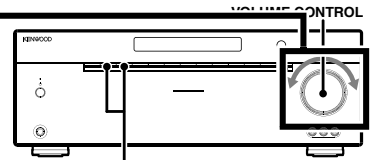
スピーカー	表示	設定
サブウーファー	"SUBW ON"	サブウーファーを接続しています。
	"SUBW OFFf"	サブウーファーを接続していません。
フロントスピーカー	"FRNT LRG"	大きめサイズのフロントスピーカー
	"FRNT NML"	普通サイズのフロントスピーカー

キーを操作することで項目を選ぶ場合には、選べる項目が表になっています。

つづく

次のページに操作説明の続きがあります。

本体のつまみのイラストには、左右に回して操作することを示す矢印が付いています。

再生する

VOLUME CONTROL
INPUT SELECTOR ▼/▲
VOLUME △/▽
入力ソースキー

1 再生する機器を選ぶ。

リモコンの各入力ソースキーを押します。
または本体の[INPUT SELECTOR ▼/▲]キーで選びます。
例：HDMI1入力ソースの場合

HDMI 1 :BD

2 選んだ機器を操作して再生を始める。

3 [VOLUME △/▽]で音量を調節する。

4 色々な臨場感を楽しむ。

さまざまなリッスンモードを楽しむことができます。（「リッスンモードを使ってサラウンド再生を楽しむ」➡39）
また、選んだ入力ソースに合わせて細かい調整もできます。（「再生するソースに合わせた調整」➡44）

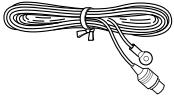
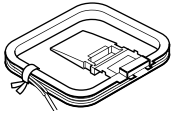
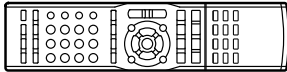
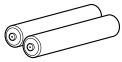
補足説明や、操作上の制限、または操作のヒントなどが書かれています。

- 入力信号の数がお使いのスピーカーより多い場合は、信号はお使いのスピーカーに合わせて自動的に振り分けられます。

- 本書のディスプレイのイラストや操作例は、操作説明用に作成したものです。実際の操作と異なる場合があります。

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM室内アンテナ（1本）

AMループアンテナ（1個）

リモコン（1個　型番：RC-R0734）

リモコン用単４形乾電池（２本）

乾電池は梱包材に差し込まれています。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い環境を守りましょう。

セットのお手入れ

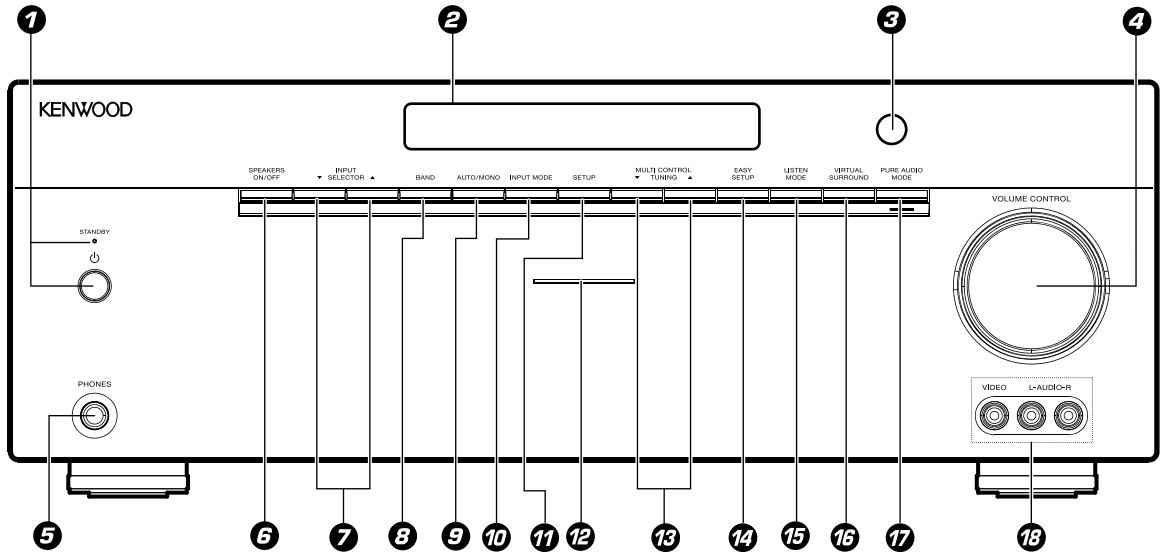
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

各部のなまえと働き

本体

❶ ⏻（電源）キー
スタンバイインジケーター

本機をオンにしたりスタンバイ状態にしたりします。
スタンバイ状態のときはスタンバイインジケーターが点灯します。

❷ ディスプレイ

❸ リモートセンサー

❹ VOLUME CONTROLツマミ

❺ PHONES 端子

❻ SPEAKERS ON/OFF キー →34

スピーカーをオン/オフします。

❼ INPUT SELECTOR ▼/▲ キー

入力ソースを選びます。

❽ BAND キー →41

放送バンドを切り換えます。

❾ AUTO/MONO キー →41

ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を切り換えます。

❿ INPUT MODE キー →34

入力モードの設定をします。

⓫ SETUP キー →27

本機の設定をします。

⓬ イルミネーション

⓭ MULTI CONTROL ▼/▲ キー

設定項目を選択します。
ラジオ放送局を選局します。 →41

⓮ EASY SETUP キー →26

簡単にスピーカーの設定をします。

⓯ LISTEN MODE キー →39

リッスンモードを切り換えます。

⓰ VIRTUAL SURROUND キー →40

バーチャルサラウンド機能をオン/オフします。

⓱ PURE AUDIO MODE キー →36

ストレートデコードモードおよび、ピュアオーディオモードをオン/オフします。

⓲ AV AUX 端子

ビデオカメラやゲーム機などを接続できます。

スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このときリモコンで本機をオンにできます。

ディスプレイ

SP(スピーカー)
スピーカーがオンのときに点灯します。
CLIP
入力レベルが高すぎるときに点灯します。
MUTE
ミュートがオンのときに点滅します。
AUTO DETECT
入力モードの設定で"AUTO"に設定しているときに点灯します。
Virtual Surround
バーチャルサラウンドがオンのときに点灯します。
AUTO
選局方法がオートのときに点灯します。
バンドインジケーター
選択したバンドが点灯します。
文字表示部
SP CLIP MUTE
AUTO DETECT
HDMI DIGITAL
PCM DSD AAC
D+ TrueHD
EX PL II x z
dts HD 96/24
NEO:6 ES
FM
AM
MHz
kHz
AUTO
ST.
TUNED
TONE ACTIVE EQ
STRAIGHT STEREO
リッスンモード/入力信号フォーマットインジケーター
HDMI
HDMIのソース機器が認識されたときに点灯します。
ST.
ステレオ放送を受信したときに点灯します。
TUNED
ラジオ放送を受信したときに点灯します。
TONE
トーンの設定がオンのときに点灯します。
STRAIGHT
ストレートデコードモードがオンのときに点灯します。
STEREO
リッスンモードがステレオのときに点灯します。
ACTIVE EQ
Active EQがオンのときに点灯します。

リモコン

❶ AUDIO キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❷ MEMORY キー →41
ラジオ放送局をプリセットします。

POP UP キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❸ SUBTITLE キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❹ DISPLAY キー
音声入力信号のタイプを表示します。

❺ 数字 キー
プリセットしたラジオ放送局を呼び出します。
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❻ LISTEN MODE キー →39
リッスンモードを切り換えます。

❼ PURE AUDIO MODE キー →36
ストレートデコードモードおよび、ピュアオーディオモードをオン/オフします。

❽ △/▽/◁/▷ キー
ENTER キー
HOME/TOP MENU キー
DISC MENU/MENU キー
RETURN キー
ON SCREEN キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❾ II キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

BAND キー →41
放送バンドを切り換えます。

▶/II キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

AUTO/MONO キー →41
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を切り換えます。

■ キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❿ P.CALL ⏮/⏭ キー →42
プリセットしたラジオ放送局を呼び出します。
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

⓫ ⏻ RECEIVER キー
本体の電源をオンにします。

⏻ BD/DVD キー →48
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

⓬ ACTIVE EQ キー →43
ACTIVE EQ機能をオン/オフします。

⓭ VIRTUAL キー →40
バーチャルサラウンド機能をオン/オフします。

⓮ BASS BOOST キー →43
低音を強調します。

⓯ TONE キー →43
トーンの調整をします。

⓰ SOUND キー →44
音質や音場を調節します。

⓱ SETUP キー →27
本機の設定をします。

⓲ HDMI SETUP キー →31
HDMIの設定をします。

⓳ MULTI CONTROL ▼/▲ キー
設定項目を選択します。

⓴ VOLUME △/▽ キー

㉑ MUTE キー →47
一時的に音を消します。

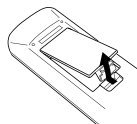
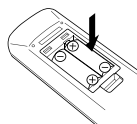
㉒ TUNING ◀◀/▶▶ キー
ラジオ放送局を選局します。 →41
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

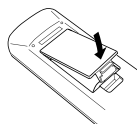
㉓ 入力ソースキー
入力ソースを選びます。

㉔ DIMMER キー →47
ディスプレイやインジケーターの明るさを切り換えます。

- * DVDプレーヤーの操作については「ケンウッドのDVDプレーヤーをリモコンで操作する」→48 をご覧ください。

電池の入れかた

1 ふたを開ける。

2 電池を入れる。

単4形乾電池(R03)2本を極性(+、−)のマークにしたがって入れてください。

3 ふたを閉める。

- 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。
- 電池を交換するときは、2本とも新しい乾電池と交換してください。

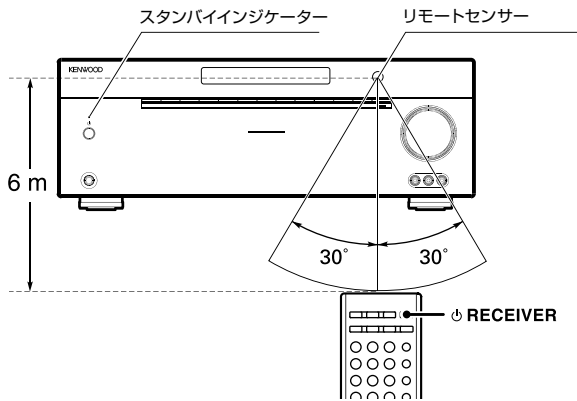
⚠注意
電池を直射日光（炎天下）や火のそばなど高温となる場所に置かないでください。
発熱・破裂・発火による火災、けがの原因となることがあります。

リモコンの操作

リモコンを本機のリモートセンサーに向けて使用してください。

本機がスタンバイ状態のとき（スタンバイインジケーターが点灯）に、[⏻ RECEIVER] キーを押すと、電源がオンになります。再び、[⏻ RECEIVER] キーを押すと電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

リモコンで接続機器を操作するときは、最初に入力ソースキーを押してリモコンをその入力ソースのモードにします。それから操作キーを押してください。

操作範囲のめやす

接続について

⚠注意
接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

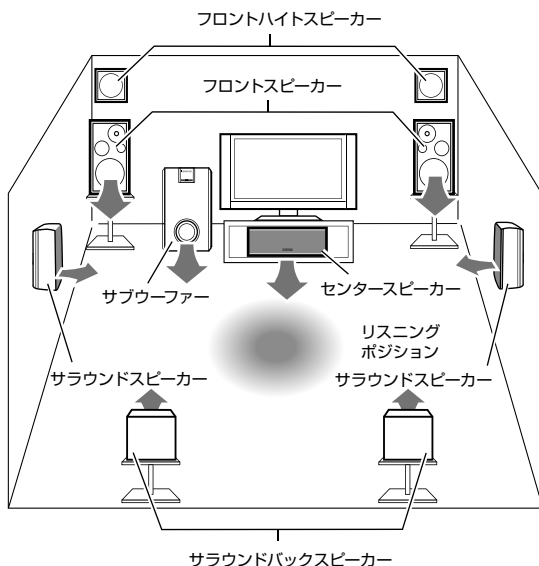
関連機器を接続するときは、関連機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- 接続をするときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
- すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音や映像が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「マイコンをリセットするには」→50 を参照してマイコンをリセットしてください。

⚠注意
機器は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切っただけでは機器は電源から完全に遮断されません。完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

⚠注意
機器を設置するときは、下記のことをお守りください。放熱が十分でないと、内部に熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しないでください。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 風通しの悪い狭い所で使用しないでください。
- 機器の各面から、下記に示すスペースを空けてください。
  上面：50cm以上
  側面：10cm以上
  背面：10cm以上

スピーカーの設置のしかた

フロントスピーカー

前面左右に設置します。左右対称が理想です。リッスンモードに関わらず必ず使用します。

フロントハイトスピーカー

視聴位置の前面でサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。

センタースピーカー

前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。

サラウンドスピーカー

座る位置の真横または少し後ろに、またできるだけ高い位置（聴く人に耳の位置より1m上方）に設置します。左右対称が理想です。音の移動感や臨場感などを再現します。

サブウーファー

一般的に部屋の前方中央のフロントスピーカー付近に置きます。迫力のある重低音効果を楽しめます。他のスピーカーと比べて指向性が強くありませんので、お部屋のレイアウトに合わせて重低音がよく聞こえる位置に設置してください。

サラウンドバックスピーカー

視聴位置の後ろでサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。サラウンドバックスピーカーを1つ接続した場合は、6.1チャンネルサラウンドシステムになります。また、サラウンドバックスピーカーを2つ接続した場合は、7.1チャンネルサラウンドシステムになります。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーやサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。

スピーカーの接続

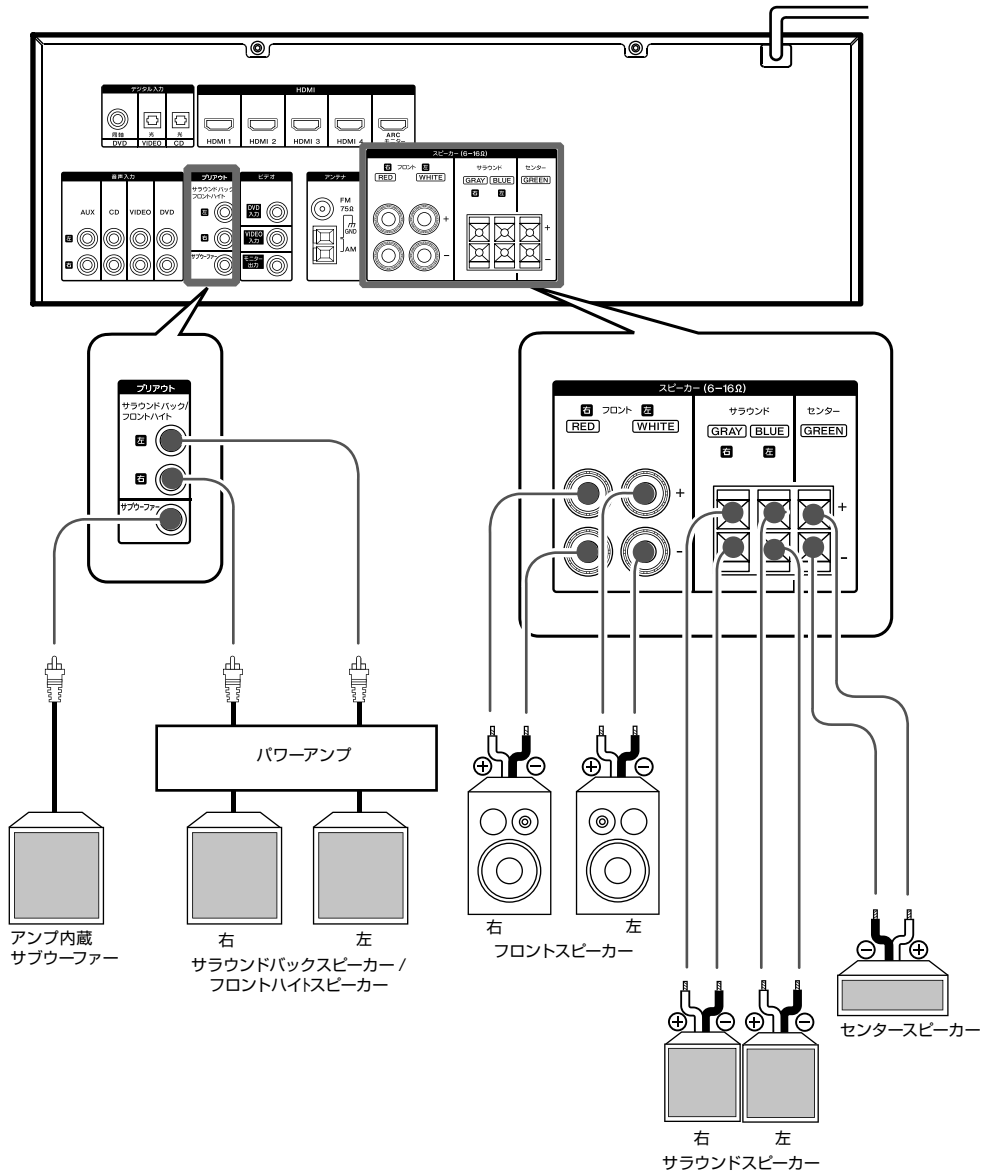
接続のしかた

アンプ内蔵
サブウーファー

右　左
サラウンドバックスピーカー /
フロントハイトスピーカー

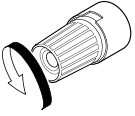
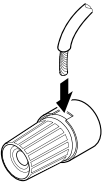
右　左
フロントスピーカー

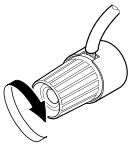
センタースピーカー

右　左
サラウンドスピーカー

- スピーカーインピーダンス：6 ― 16 Ω
- スピーカーコードの＋と−は絶対にショートさせないでください。
- スピーカーコードの左右を逆にしたり、極性を間違えて接続すると、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。
- サラウンドバックスピーカーが1つの場合は、サラウンドバック左端子に接続してください。
- 市販のバナナプラグを使用する場合は、スピーカー端子をしっかり締めた状態で接続してください。

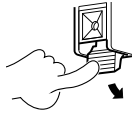
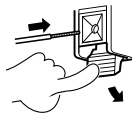
スピーカー端子の接続のしかた（スクリュータイプ端子）

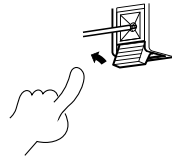
1 コードのビニール被覆を約1cm程度むく。

2 つまみをゆるめる。

3 コードを差し込む。

金属部分が隠れるくらいまで入れます。

4 つまみを締める。

スピーカー端子の接続のしかた（プッシュタイプ端子）

1 コードのビニール被覆を約1cm程度むく。

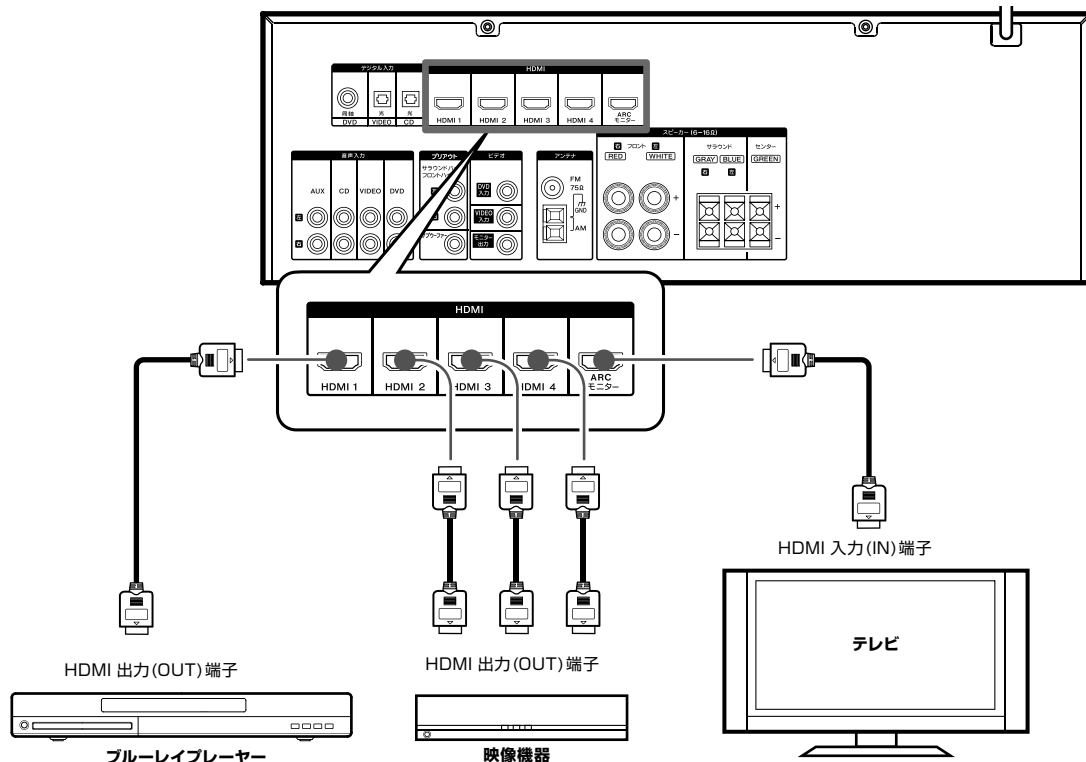
2 レバーを押す。

3 コードを差し込む。

金属部分が隠れるくらいまで入れます。

4 レバーを戻す。

HDMI端子のある機器の接続

HDMI接続をすると、HDMIケーブルのみで映像信号と音声信号をデジタルで伝送することができます。ブルーレイディスクなどに記録された3D映像を含む高画質な映像や、ドルビーTrueHD、DTS-HDマスターオーディオ、マルチチャンネルPCMなどの高音質な音声を楽しむことができます。また、テレビの電源と本機の電源を連動させることもできます。（「HDMIの設定」→31）

1 HDMIケーブルで、本機のHDMI入力端子（HDMI 1またはHDMI 2、HDMI 3、HDMI 4入力端子）とブルーレイプレーヤーなどの再生機器のHDMI出力端子を接続する。

2 HDMIケーブルで、本機のHDMIモニター出力端子とテレビのHDMI入力端子を接続する。

HDMI
HDMI 1
HDMI 2
HDMI 3
HDMI 4
ARC
モニター
HDMI 入力(IN)端子
テレビ
HDMI 出力(OUT)端子
HDMI 出力(OUT)端子
ブルーレイプレーヤー
映像機器

HDMI機能を使うには

HDMI機能を使うためにはHDMIの設定が必要です。「HDMIの設定」→31 を参照してください。

映像信号の流れ

HDMI 入力端子から入力したデジタル映像は、HDMIモニター出力端子からのみ出力されます。

音声信号の流れ

HDMI 入力端子から入力したデジタル音声は、本機に接続されたスピーカーから出力されます。またHDMIの設定により、本機に接続されたテレビから出力することもできます。（「HDMIの設定」→31）

- DVI端子のあるテレビを接続するには、HDMI/DVI変換ケーブルが必要です。また、テレビがHDCP(High-bandwith Digital Contents Protection)に対応している必要があります。ただし、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。
- HDMIケーブルで接続された機器間で認証が必要なため、映像や音声が出るまでに時間がかかることがあります。
- 音声や映像が正常に出力されない場合は、接続されたすべての機器の電源を一度切って、もう一度入れ直してください。
- 接続には、認証済みのHigh Speed HDMI™ Cable（カテゴリ2ケーブル）をお使いください。

なお、本機に搭載されているARC機能をご使用の際には、上記ロゴが表記されているケーブルが必要です。

テレビの接続

1 接続する映像機器に応じて、下図の接続 A と B から必要な接続を選んでテレビに接続する。

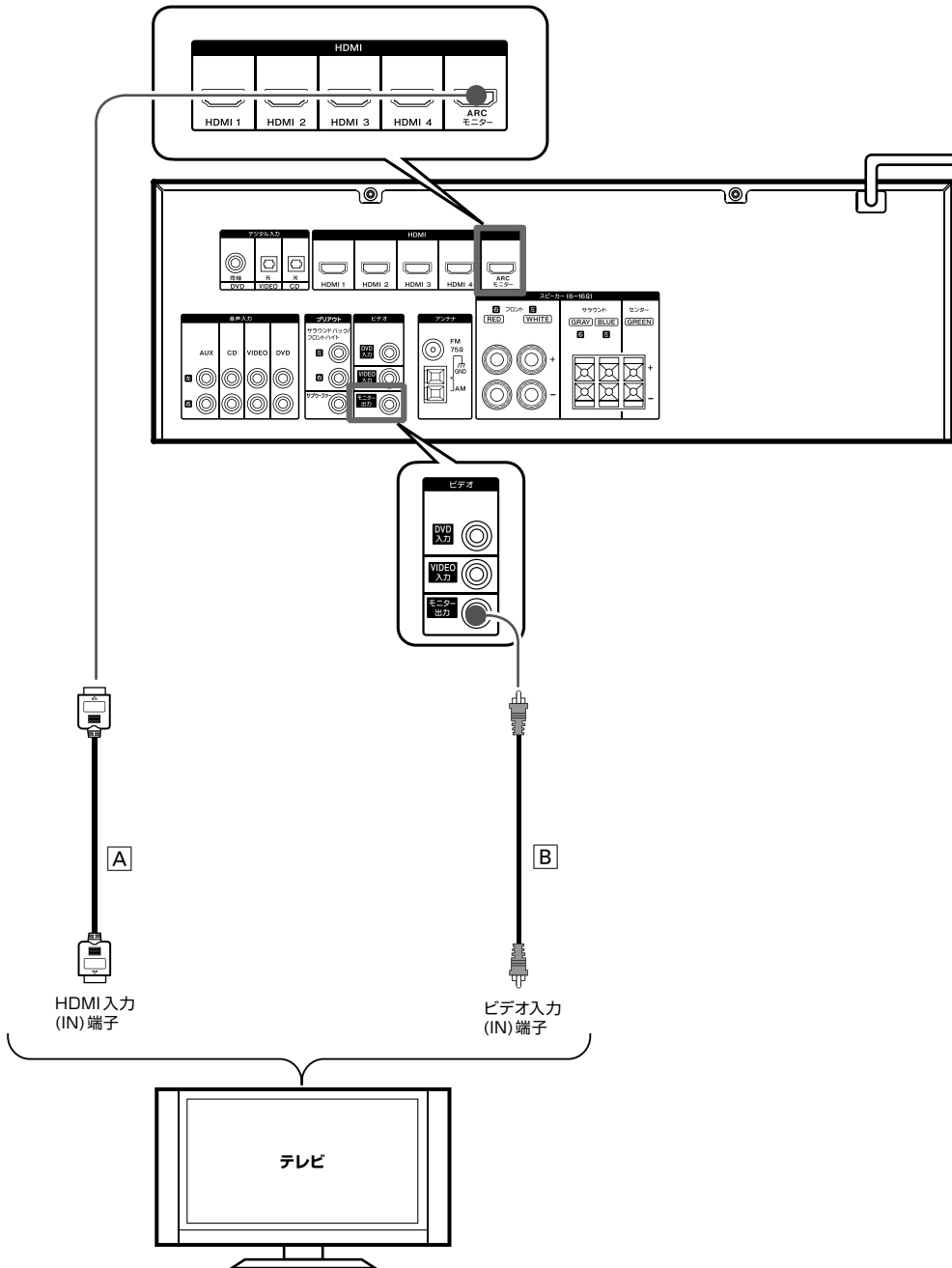
接続機器の音声接続と映像接続は、接続する機器のページをご覧ください。

A

B

HDMI入力
(IN)端子

ビデオ入力
(IN)端子

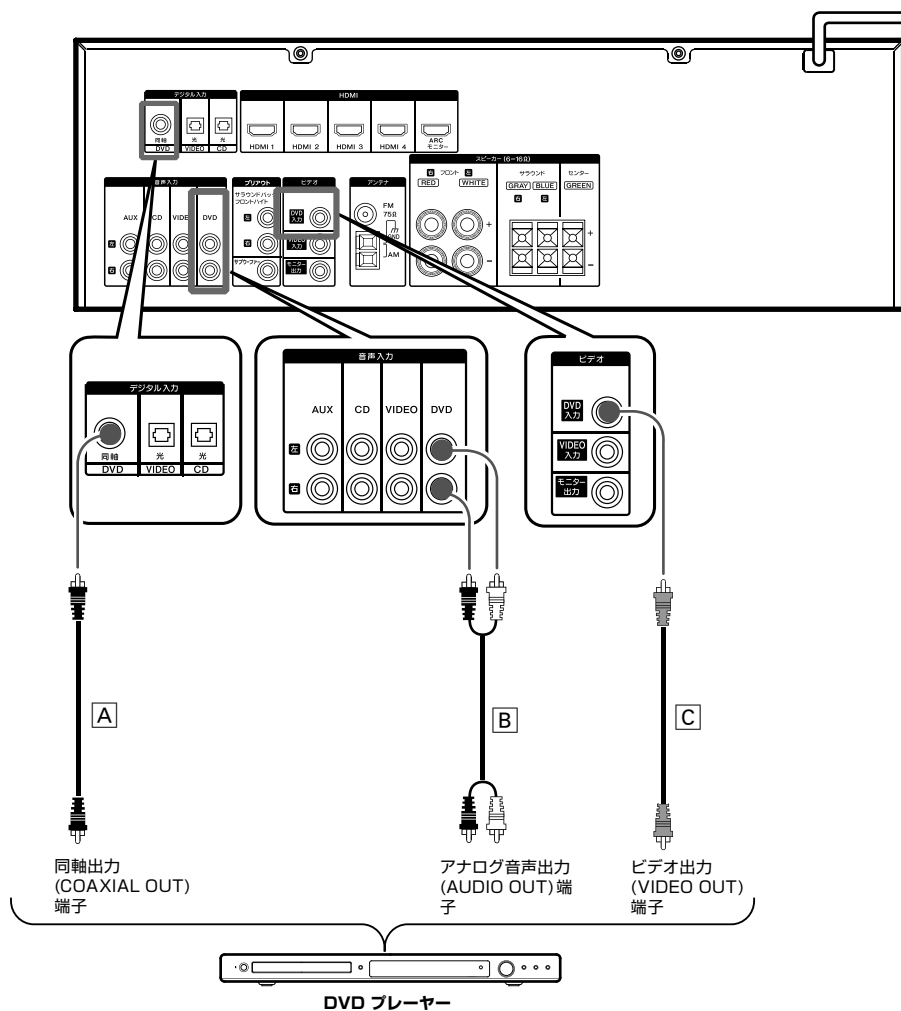
テレビ

- テレビにHDMI端子がない場合は、HDMI映像は見られません。
- "DVD入力" または "VIDEO入力" に入力された信号は、VIDEO の "モニター出力" からのみ出力されます。

DVDプレーヤーの接続

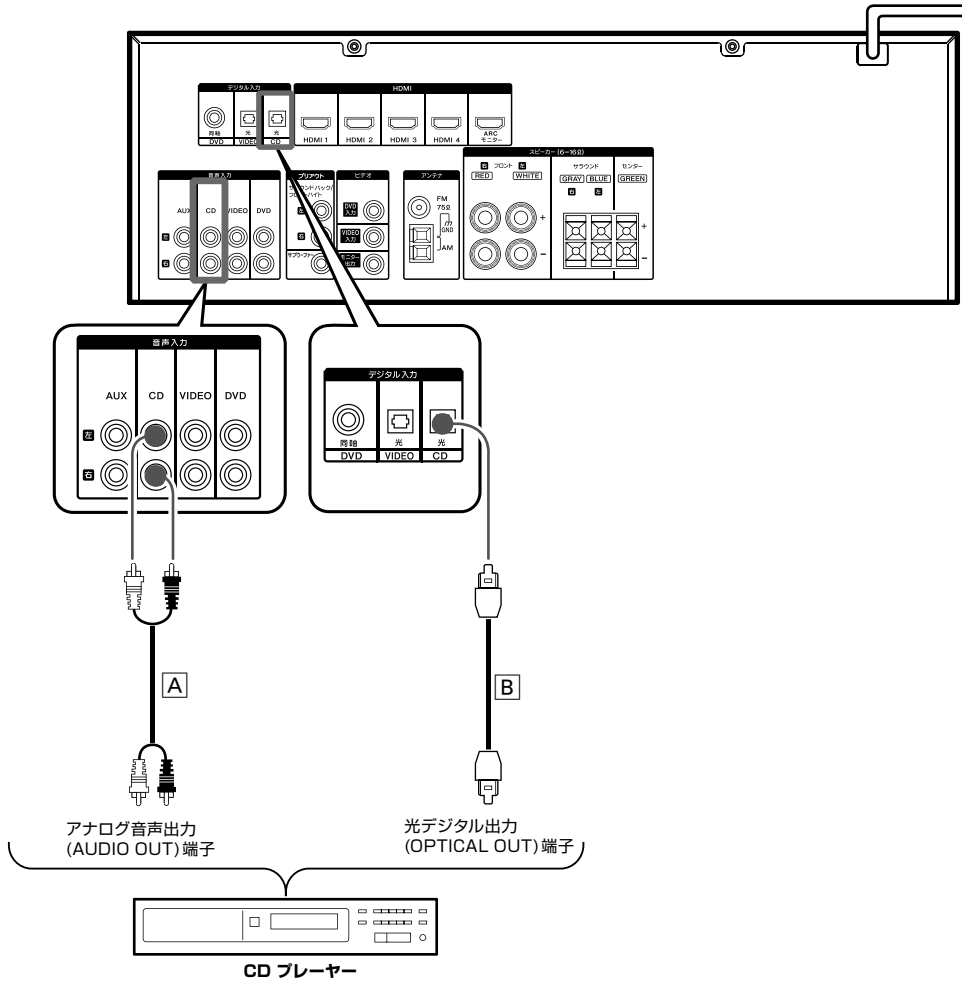
1 音声接続をする：下図の接続 A（デジタル）または B（アナログ）

2 映像接続をする：下図の接続 C

3 テレビの接続をする

「テレビの接続」→19 を参照して接続してください。

- 接続するDVDプレーヤーやテレビにHDMI端子がある場合はHDMI接続することをお勧めします。（「HDMI端子のある機器の接続」→18）

CDプレーヤーの接続

1 音声接続をする：下図の接続 B（デジタル）または A（アナログ）

映像再生機器の接続

1 音声接続をする：下図の接続 A（デジタル）または B（アナログ）

2 映像接続をする：下図の接続 C

3 テレビの接続をする

「テレビの接続」→19 を参照して接続してください。

A

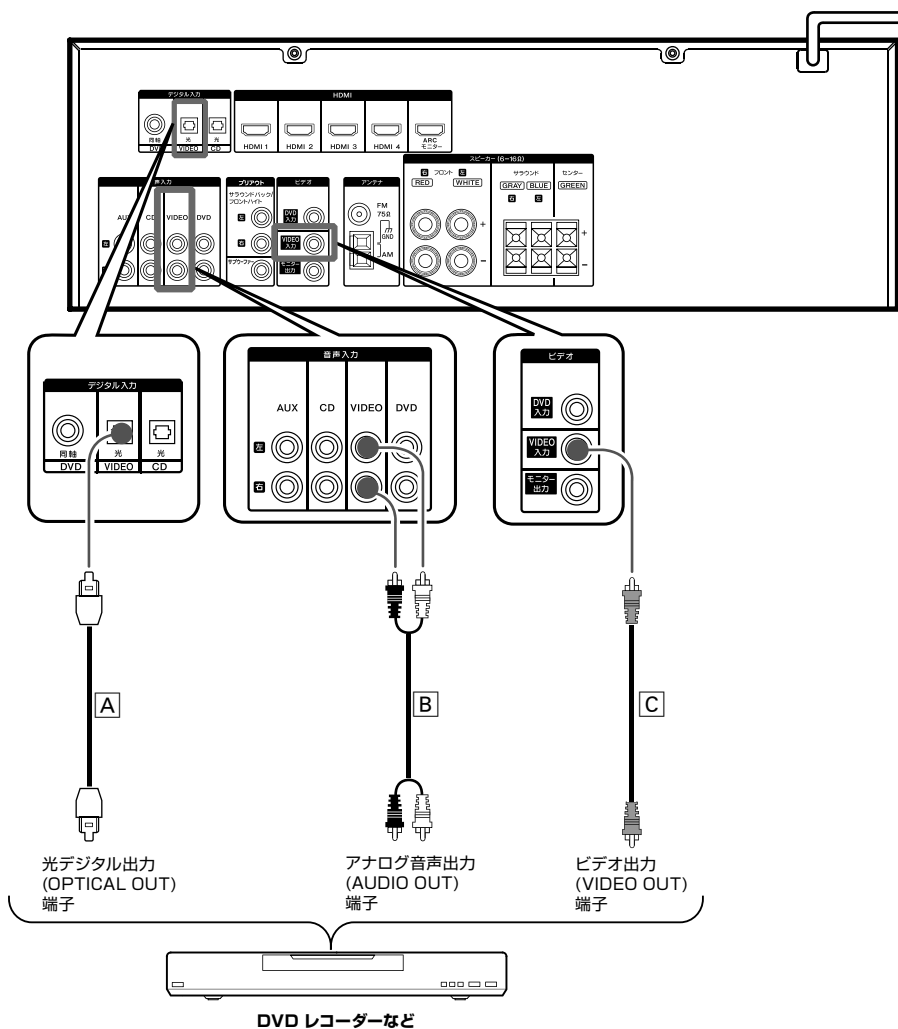
B

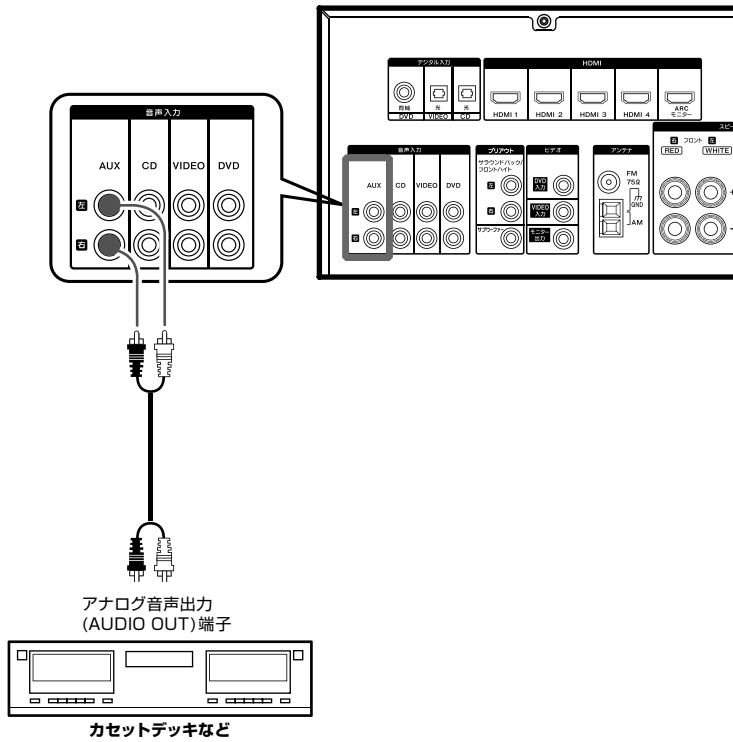
C

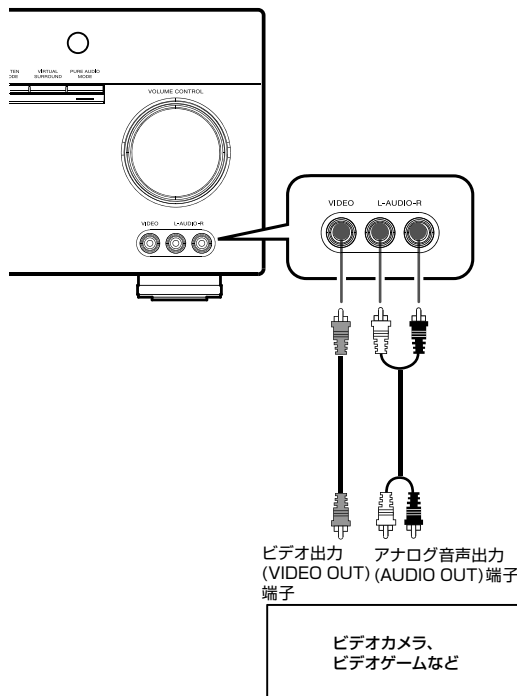
光デジタル出力
(OPTICAL OUT)
端子

アナログ音声出力
(AUDIO OUT)
端子

ビデオ出力
(VIDEO OUT)
端子

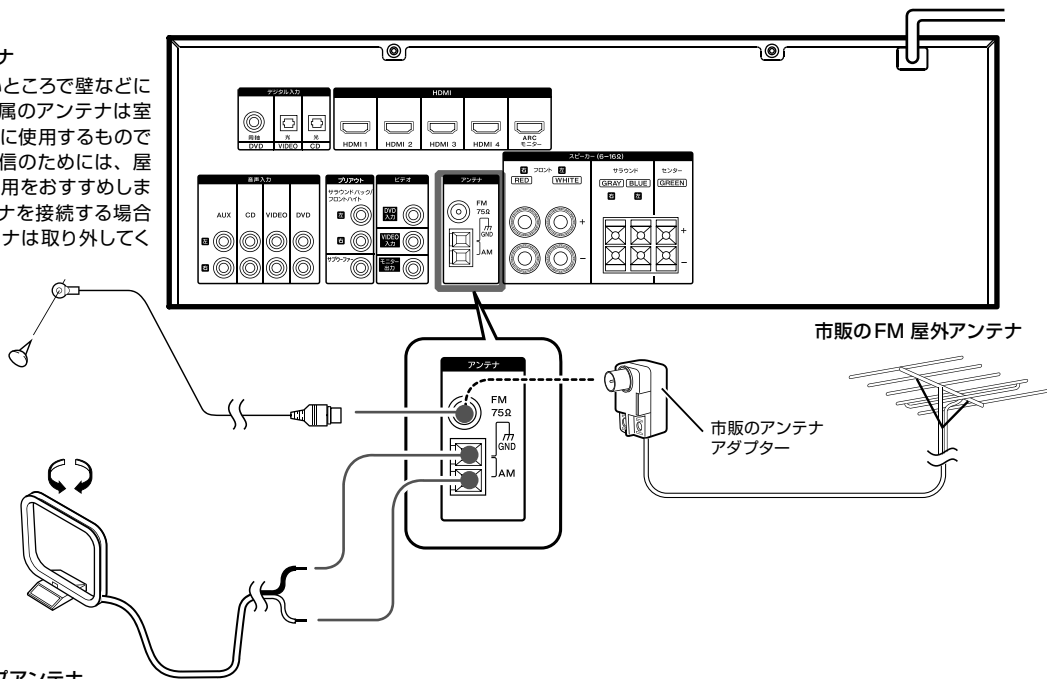
DVD レコーダーなど

- 接続する再生機器やテレビにHDMI端子がある場合はHDMI接続することをお勧めします。（「HDMI端子のある機器の接続」→18）

オーディオプレーヤーの接続

AV AUX端子の接続

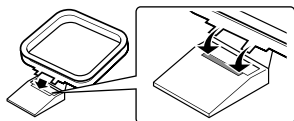
ポータブルビデオカメラ機器など普段は本機に接続して使用しない機器は、本体前面にあるAV AUX端子に接続することができます。

接続のしかた

アンテナの接続

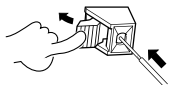
アンテナを接続しないとラジオ放送が受信できません。下記に従って正しく接続してください。

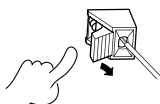
FM 室内アンテナ
受信状態の良いところで壁などに固定します。付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をおすすめします。屋外アンテナを接続する場合は、室内アンテナは取り外してください。

AM ループアンテナ
本機、テレビ、パソコン、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番良い方向に向けます。

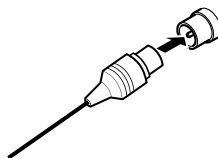
AM ループアンテナ端子の接続のしかた

1 アンテナを組み立てる。

溝に差し込みます。

2 レバーを押す。

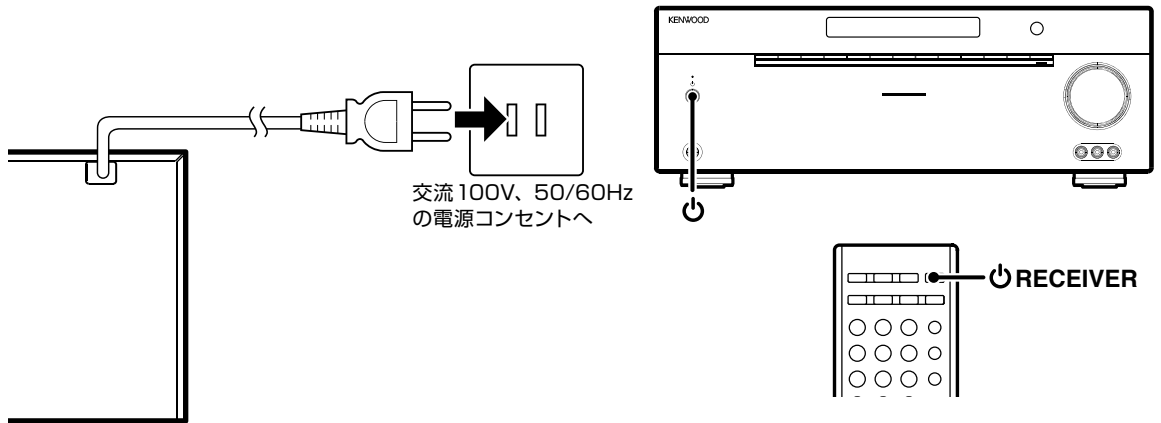
3 アンテナコードを差し込む。

金属部分が隠れるくらいまで入れます。

4 レバーを戻す。

FM 室内アンテナの接続のしかた

1 アンテナコードを差し込む。

FM 屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って室内へ引き込み、FM75Ω端子に接続します。

⚠注意　屋外アンテナ設置上のご注意
アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因になることがあります。

電源を入れる

1 すべての接続が完了したら、電源コードをコンセントに接続する。

フロントパネルのスタンバイインジケーターが赤く点灯し、スタンバイ状態になります。

2 本機の [⏻ (電源)]、またはリモコンの [⏻ (RECEIVER)] を押して電源をオンにする。

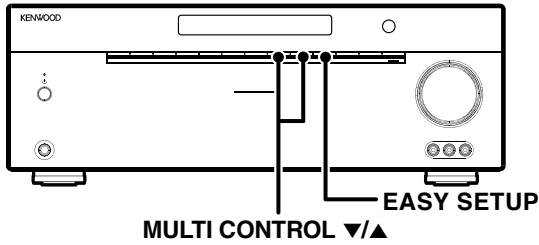
フロントパネルのスタンバイインジケーターが消灯し、ディスプレイが点灯します。

電源をオフにする(スタンバイ状態)には

本機の [⏻ (電源)]、またはリモコンの [⏻ (RECEIVER)] を押す。

スピーカーの設定（簡易設定）

スピーカーの設定が、部屋タイプと聴く位置を選ぶことによって完了します。音声は、使用しているスピーカーシステムの特性によって、自動的に修正されます。

より詳細なスピーカーの設定が必要な場合は、「スピーカーの設定（詳細設定）」→27 の手順で設定します。

1 [EASY SETUP] を押して簡易設定モードに入る。

2 部屋の大きさを設定する

[MULTI CONTROL ▼/▲] で部屋タイプを選ぶ。

[EASY SETUP] を押す。

3 聴く位置を選ぶ

[MULTI CONTROL ▼/▲] で聴く位置を選ぶ。

FRONT

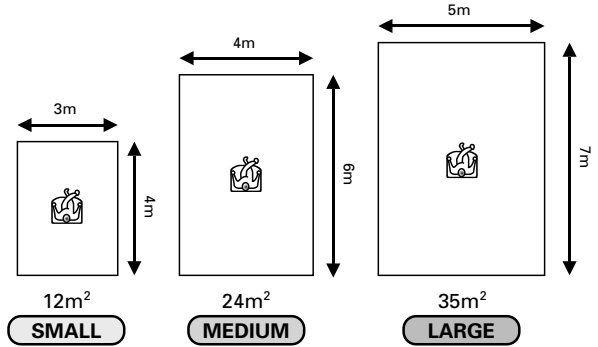
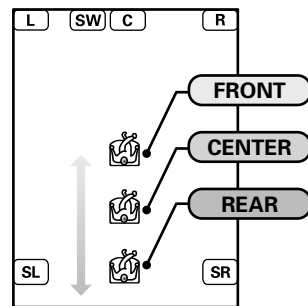
[EASY SETUP] を押す。

簡易設定モードを終了し、スピーカーは以下のように設定されます。

サブウーファー ➡ オン
フロントスピーカー ➡ 標準サイズ
センタースピーカー ➡ 標準サイズ
サラウンドスピーカー ➡ 標準サイズ
サラウンドバックスピーカー ➡ オフ
フロントハイトスピーカー ➡ オフ
サブウーファーリミックス ➡ オン

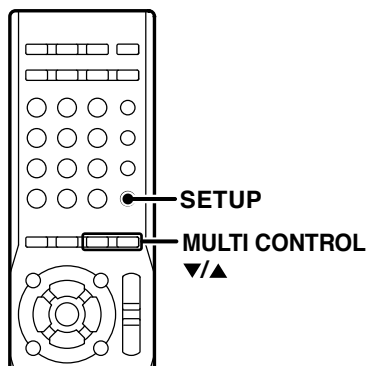
設定内容の詳細については、<スピーカーの設定（詳細設定）> →29 を参照してください。

- 簡易設定は、特定のスピーカーシステムまたは聴いている環境では適切でない場合があります。この場合、<スピーカーの設定（詳細設定）>を行ってください。
- 簡易設定は、5.1-チャンネルシステムのみ設定することができます。7.1-チャンネルまたは6.1-チャンネルのための設定が必要であれば、<スピーカーの設定（詳細設定）>を行ってください。
- サブウーファーリミックス：
  サブウーファーチャンネルに他のチャンネルの低音を追加します。

部屋の大きさの参考

聴く位置の参考

本機の設定

スピーカーの設定（詳細設定）

詳細設定では、聴いている部屋の環境に応じてレシーバーの性能を最大限に楽しむことができます。

最高のリスニング環境をつくるために、ケンウッドでは聴いている位置で設定を行うことを推奨します。

スピーカー設定の流れ

スピーカーの設定は、7つの要素から成ります。

1 詳細設定モードに入る。

[SETUP] を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で設定する項目を選ぶ。

SP SETUP

[SETUP] を押す。

要素	表示	設定
スピーカー構成	"SP SETUP"	各スピーカーチャンネルを使用するかどうかと、使用するときのスピーカーサイズを選びます。
スピーカーレベル	"TESTTONE"	各スピーカーからの出力レベルを選びます。
スピーカーの距離	"DISTANCE"	各スピーカーと聴いている位置の間の距離を選びます。
クロスオーバー周波数	"CROSSOVER"	スピーカー構成の設定で "NML" に設定されたスピーカーで再生する低音域周波数の下限を設定します。設定した周波数より低い帯域の音声信号は、"LRG" に設定されている他のスピーカーや、サブウーファーから出力されます。
LFE (Low Frequency Effect) レベル	"LFE LVL"	低音音声強化のレベルを選びます。LFEは、よりダイナミックな深い低音音響効果のために、別々の無指向性低音信号をサブウーファーに送ります。
リップシンク	"LIP SYNC"	映像と音声の間の時間のずれを調節します。
オートパワーセーブ	"APS"	オートパワーセーブのオン/オフを設定します。
	"EXIT"	詳細設定モードを終了します。

2 各項目を設定します。

各設定項目を参照してください。

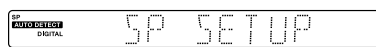
スピーカー構成 –"SP SETUP"–

スピーカー有無やスピーカーのサイズを選びます。

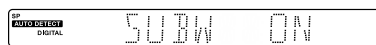
1 詳細設定モードに入る。

[SETUP] を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で "SP SETUP" を選ぶ。

SP SETUP

[SETUP] を押す。

2 各スピーカーの有無や大きさを選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲] でスピーカーを選び、有無や大きさを選ぶ。

SUBW ON

[SETUP] を押す。

上記の操作を繰り返してすべてのスピーカーの設定をします。

スピーカー	表示	設定
サブウーファー	"SUBW ON"	サブウーファーを接続しています。
	"SUBW OFF"	サブウーファーを接続していません。
フロントスピーカー	"FRNT LRG"	大きめサイズのフロントスピーカー
	"FRNT NML"	普通サイズのフロントスピーカー
センタースピーカー	"CNTR LRG"	大きめサイズのセンタースピーカー
	"CNTR NML"	普通サイズのセンタースピーカー
	"CNTR OFF"	センタースピーカーを接続していません。
サラウンドスピーカー	"SURR LRG"	大きめサイズのサラウンドスピーカー
	"SURR NML"	普通サイズのサラウンドスピーカー
	"SURR OFF"	サラウンドスピーカーを接続していません。

つづく

フロントハイト/サラウンドバックスピーカー選択	"FH/SB FH"	フロントハイトスピーカーを接続しています。
	"FH/SB SB"	サラウンドバックスピーカーを接続しています。
	"FH/SBOFF"	フロントハイトスピーカーとサラウンドバックスピーカーを接続していません。
フロントハイトスピーカー	"FH LRG"	大きめサイズのフロントハイトスピーカーを接続しています。(7.1ch)
	"FH NML"	普通サイズのフロントハイトスピーカーを接続しています。(7.1ch)
サラウンドバックスピーカー	"SB LRGX2"	大きめサイズのサラウンドバックスピーカーを2つ接続しています。(7.1ch)
	"SB LRGX1"	大きめサイズのサラウンドバックスピーカーを1つ接続しています。(6.1ch)
	"SB NMLX2"	普通サイズのサラウンドバックスピーカーを2つ接続しています。(7.1ch)
	"SB NMLX1"	普通サイズのサラウンドバックスピーカーを1つ接続しています。(6.1ch)
サブウーファーリミックス	"RMX ON"	サブウーファーリミックスをオンにします。
	"RMX OFF"	サブウーファーリミックスをオフにします。

3 次の設定へ進む。

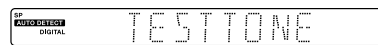
- スピーカーサイズの目安
  "LRG"(大きめ): 十分な低音域再生能力のあるスピーカー（大口径のウーファーのあるスピーカーや、大きなキャビネットサイズのスピーカーなど）
  "NML"(普通): 低音域再生能力が"LRG"より低いスピーカー（低音域は"LRG"に設定されている他のスピーカーやサブウーファーから出力されます。）
  サイズが分からない場合は、"NML"の設定をおすすめします。
- サブウーファーで"SUBW OFF"を選んだときは、フロントスピーカーは"FRNT LRG"に設定されます。
- フロントスピーカーで"FRNT LRG"を選んだときは、サブウーファーの設定を"SUBW ON"にしていてもサブウーファーから音は出ません。サブウーファーから音を出したい場合は、サブウーファーリミックスをオンにしてください。
- フロントスピーカーで"FRNT NML"を選んだときは、その他のスピーカーで"LRG"を選べません。
- サラウンドスピーカーで"SURR OFF"を選んだ場合は、サラウンドバックスピーカーを選べません。
- サラウンドスピーカーで"SURR NML"を選んだ場合は、サラウンドバックスピーカーで"SB LRG"とフロントハイトスピーカーで"FH LRG"を選べません。

スピーカーレベル –"TESTTONE"–

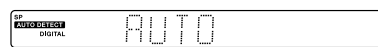
テストトーンを聴きながら、すべてのスピーカーからの音量がほぼ同じになるように調整します。

1 "TESTTONE"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"TESTTONE"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

2 テストトーンの再生方法を選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で選ぶ。

[SETUP]を押す。

表示	設定
"AUTO"	テストトーンが約2秒ごとに各スピーカーから聞こえます。
"MANUAL"	テストトーンを出力するスピーカーを自分で選んで調整するモードです。

3 各スピーカーの音量レベルを調整する。

"AUTO"を選んでいるとき

調整したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときに[MULTI CONTROL ▼/▲]で音量レベルを調整します。すべての調整が終わったら[SETUP]で確定します。

"MANUAL"を選んでいるとき

[MULTI CONTROL ▼/▲]で音量レベルを調整して、[SETUP]で確定します。次のスピーカーからテストトーンが聞こえます。

レベルは-10dBから+10dBの範囲で1dBごとに調整できます。

4 次の設定へ進む。

- 市販の音圧計をお持ちの場合は、メーターの読み取り単位を"C"に設定し、ノイズレベルが75dBになるように各チャンネルの音量レベルを調節します。調整はリスニングポジションで行ってください。

スピーカーの距離 –"DISTANCE"–

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定します。設定を行う前に、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を測って下の表に記入しておきましょう。

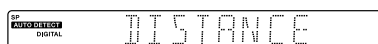
スピーカーの距離

スピーカー	表示	スピーカーまでの距離
フロントスピーカー（左）	"LEFT"	m (ft)
フロントハイトスピーカー（左）	"LEFT HEIGHT"	m (ft)
センタースピーカー	"CENTER"	m (ft)
フロントハイトスピーカー（右）	"RIGHT HEIGHT"	m (ft)
フロントスピーカー（右）	"RIGHT"	m (ft)
サラウンドスピーカー（右）	"SURR RIGHT"	m (ft)
サラウンドバックスピーカー（右）	"SURR BACK RIGHT"	m (ft)
サラウンドバックスピーカー	"SURR BACK"	m (ft)
サラウンドバックスピーカー（左）	"SURR BACK LEFT"	m (ft)
サラウンドスピーカー（左）	"SURR LEFT"	m (ft)
サブウーファー	"SUBWOOFER"	m (ft)

1 "DISTANCE"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

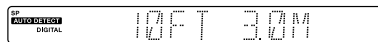
[MULTI CONTROL ▼/▲]で"DISTANCE"を選ぶ。

SP AUTO DETECT DIGITAL DISTANCE

[SETUP]を押す。

2 距離を設定する。

各スピーカーから本機までの距離は、上表を参照してください。
左フロントスピーカーから調整が開始されます。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で距離を設定する。

SP AUTO DETECT DIGITAL 10FT 3.0M

[SETUP]を押す。

0.3m ～ 9.0m（1ft～30.0ft）まで、0.3m（1ft）ごとに調節できます。

3 すべてのスピーカーの距離が設定されるまで、各々のスピーカーで手順２を繰り返してください。

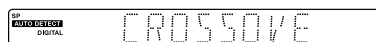
4 次の設定へ進む。

クロスオーバー周波数 –"CROSSOVER"–

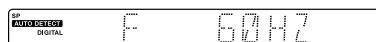
スピーカー構成の設定で"NML"に設定されたスピーカーで再生する低音域周波数の下限を設定します。設定した周波数より低い帯域の音声信号は、"LRG"に設定されている他のスピーカーや、サブウーファーから出力されます。

1 "CROSSOVER"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"CROSSOVER"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

2 クロスオーバー周波数を選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でクロスオーバー周波数を選ぶ。

[SETUP]を押す。

40, 60, 80, 100, 120, 150 および 200Hzに調整できます。

3 次の設定へ進む。

LFE (Low Frequency Effect) レベル –"LFE LVL"–

Dolby Digital やDTSの再生時に低音を調節します。

1 "LFE LVL"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"LFE LVL"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

2 LFEレベルを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でLFEレベルを設定する。

[SETUP]を押す。

レベルは0dBから-10dBの範囲で1dBごとに調整できます。

3 次の設定へ進む。

リップシンク –"LIP SYNC"–

テレビモニター映像の方がスピーカーから聞こえる音声より遅い場合に音声を遅らせる調整をします。

1 "LIP SYNC"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"LIP SYNC"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

2 ディレイタイムを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でディレイタイムを選ぶ。

[SETUP]を押す。

レベルは0ms(ミリ秒)から300ms(ミリ秒)の範囲で10msごとに調整できます。

3 次の設定へ進む。

オートパワーセーブ (APS : Auto Power Save) –"APS"–

オートパワーセーブ(APS)とは、30分以上何も操作しないと、自動的に電源がオフになる機能です。

1 "APS"を選ぶ。

[SETUP]

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"APS"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

2 APSを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"APS ON"または"APS OFF"を選ぶ。

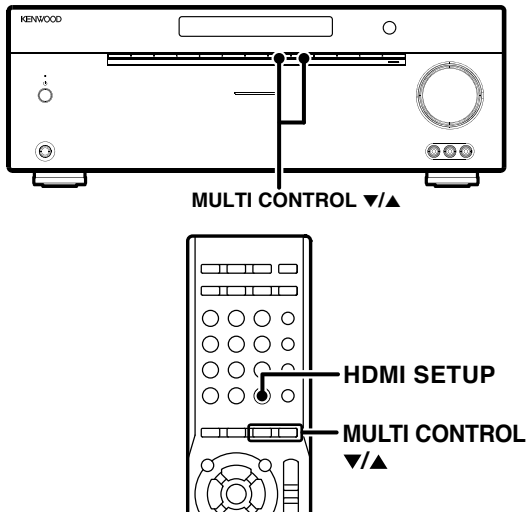
[SETUP]を押す。

3 [SETUP]を押して設定モードを終了します。

- オートパワーセーブ(APS)は、音量が0またはミュートがオン、または入力セレクタがHDMI1～4でHDMIインジケーターが消灯している時に動作します。

本機の設定

HDMIの設定

HDMI端子に接続した機器を使ったり、HDMIコントロール機能を使ったりするためにはHDMIの設定が必要です。

HDMIの設定

HDMIコントロール機能の設定をします。

1 HDMI設定モードに入る。

[HDMI SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で設定する項目を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

表示		設定
"AUDIO OUT"		HDMIの音声の出力先を設定します。
"LIP SYNC"		出力する音声と映像の時間のずれを補正します。
"LINK SET"		HDMIコントロール機能を使うか使わないか設定します。
	"POWER CONTROL"*[1]	HDMIコントロールで電源のオン／オフを連動させます。
"EXIT"		HDMI設定モードを解除します。

*[1] "LINK SET"の設定を"ON"にしたときに設定できます。

2 それぞれの項目の設定をする。

各設定項目を参照してください。

音声出力 –"AUDIO OUT"–

HDMIの音声入力の出力先を設定します。

1 "AUDIO OUT"を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で項目を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

2 HDMIの音声の出力先を設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で出力先を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

表示	設定
"AMP"	音声は本機に接続されたスピーカーから出ます。
"TV"	音声は本機に接続されたテレビから出ます。

3 次の設定に進みます。

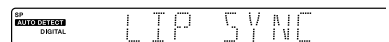
- "TV"に設定時に音が出ないまたはノイズが出る場合は、再生機器側の音声出力設定をPCMにしてください。
- "TV"に設定時は、音量はテレビ側で調整してください。

リップシンク –"LIP SYNC"–

テレビモニター映像の方がスピーカーから聞こえる音声より遅い場合に音声を遅らせる調整をします。

1 "LIP SYNC"を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で項目を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

2 HDMI音声出力の遅延補正方法と遅延時間を設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で遅延補正方法を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

つづく

本機の設定

表示	設定
"AUTO"	出力する音声と映像の時間のずれを自動で補正します。
"MANUAL"	出力する音声と映像の時間のずれを手動で補正します。
"OFF"	補正はしません。

"MANUAL"を選んだ場合は、[MULTI CONTROL▼/▲]で遅延時間を選択し、[HDMI SETUP]で確定します。
レベルは0ms(ミリ秒)から300ms(ミリ秒)の範囲で10msごとに調整できます。

3 次の設定に進みます。

• テレビが"AUTO"に対応していない場合は"MANUAL"を選んでください。

HDMI リンク –"LINK SET"–

本機からまたは接続機器からの操作で、入力ソースの切り換えを連動させるかを設定します。

1 "LINK SET"を選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で項目を選ぶ。

LINK SET

[HDMI SETUP]を押す。

2 HDMIコントロール機能のオン/オフを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でオン/オフを選ぶ。

LINK ON

[HDMI SETUP]を押す。

表示	設定
"LINK ON"	HDMIコントロール機能を使います。
"LINK OFF"	HDMIコントロール機能を使いません。

3 "LINK ON"に設定した場合は「パワーコントロール」の設定に進みます。

パワーコントロール –"POWER CONTROL"–

本機に接続された機器からの電源操作や再生操作によって、本機の電源を連動させるかを設定します。

1 HDMIパワーコントロール機能のオン/オフを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でオン/オフを選ぶ。

[HDMI SETUP]を押す。

表示	設定
"PWR ON"	テレビの電源をオン/オフすると、本機の電源も連動します。
"PWR OFF"	テレビの電源に本機の電源は連動しません。

HDMI機能の確認

お使いの機器やテレビによっては、一部のHDMIコントロール機能に対応していないため、正しく動作しないことがあります。HDMIコントロール機能を使う前に、お使いの機器がどの機能に対応しているか、下記の手順で確認することによって、HDMIコントロール機能をより便利に使うことができます。もし、正常に動作しない機能があった場合は、それぞれの設定をオフにして本機をご使用ください。

操作の前に

- 本機、テレビ、およびHDMI接続できる機器をHDMIケーブルで接続してください。
- テレビやHDMI接続できる機器のHDMIコントロール設定を有効にしてください。（テレビや再生機器の設定に関しては、それぞれの取扱説明書をご確認ください。）
- 本機のHDMIリンクおよびパワーコントロールをオンに設定してください。

HDMIの基本動作の確認

1 HDMI接続しているすべての機器の電源を入れる。

2 テレビの入力を、本機に接続したHDMI入力に切り換える。

3 本機の入力を、HDMI入力のソースに切り換えて、接続機器の映像が正しく映り、音声がスピーカーから出力されることを確認する。

HDMIコントロール機能の確認

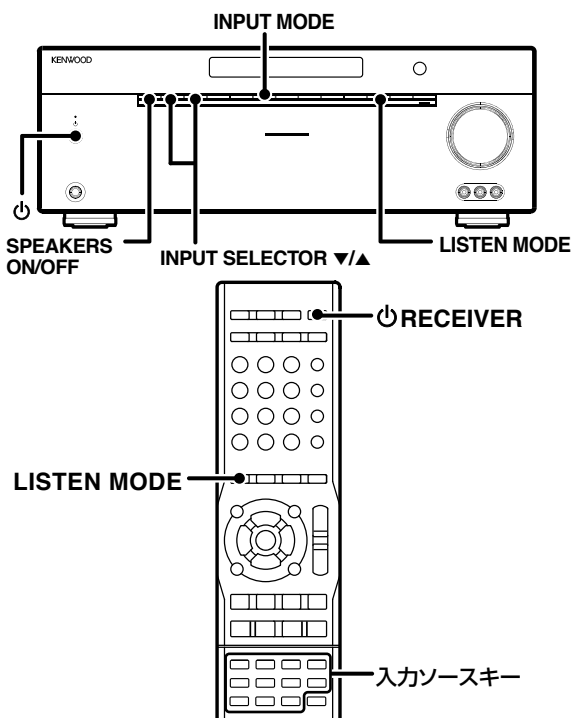
1 HDMI接続しているすべての機器の電源を入れる。

2 テレビのリモコンでテレビの電源をオフ（スタンバイ）にする。

すべての機器の電源がオフになりますか？（パワーコントロールの確認）

3 HDMI接続しているすべての機器の電源がオフの状態で、再生機器を操作して再生を始める。

すべての機器の電源がオンになり、本機とテレビの入力が自動的に切り替わりますか？（HDMIリンクとパワーコントロールの確認）

- 以下の操作をしているときには、HDMIコントロール機能は使えません。
  - セットアップ中

電源を入れる

1 接続しているテレビやプレーヤーの電源を入れる。

2 [⏻ RECEIVER](リモコン)または[⏻](本体)を押して本機の電源をオンにする。

スピーカーシステムの設定

● 本体のみで操作できます。

[SPEAKERS ON/OFF]を押してスピーカー出力をオン/オフする。

スピーカーシステムをオンにすると"SP"インジケーターが点灯します。

入力モードの設定

● 本体のみで操作できます。

デジタル入力端子(CD、VIDEO、DVD)とHDMI入力端子(HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4)に接続した機器を再生するときには、音声入力タイプと合うように入力モードを設定します。

1 [INPUT SELECTOR]で"HDMI1"、"HDMI2"、"HDMI3"、"HDMI4"、"DVD"、"VIDEO"、または"CD"を選ぶ。

2 [INPUT MODE]を押して入力モードを選びます。

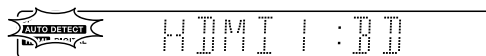
HDMI1、HDMI2、HDMI3またはHDMI4入力ソースのとき

表示	設定
"AUTO"	デジタル信号の種類(PCM/Dolby Digital/DTS/AAC)にあわせてデコードモードを切り換えます。
"MANUAL"	デコードモードは再生するデジタル信号の種類に固定されます。

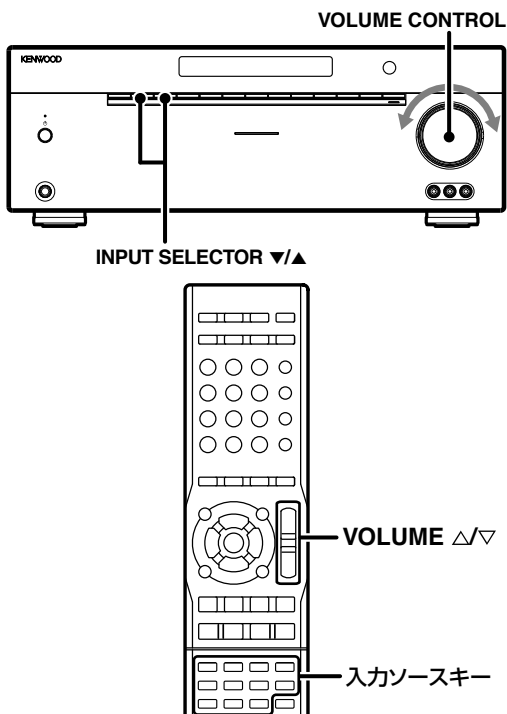
DVD、VIDEOまたはCD入力ソースのとき

表示	設定
"AUTO"	入力信号にあわせてデジタルとアナログを切り換えます。デジタル信号を検出した場合は、信号の種類(PCM/Dolby Digital/DTS/AAC)にあわせてデコードモードを切り換えます。
"MANUAL"	入力モードをデジタルに固定することによって入力信号の処理を早め、再生時の頭切れをなくします。 デコードモードは再生する信号の種類に固定されます。
"ANALOG"*[1]	入力モードをアナログに固定します。 アナログ再生機器を再生するときに選びます。

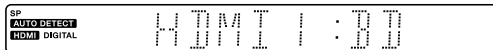
*[1] DTSを再生時は設定できません。

- "AUTO"を選択しているときは、"AUTO DETECT"インジケーターが点灯します。

- "MANUAL"を選択中に入力信号の切り換わりによって音声が出なくなった場合は、[LISTEN MODE]を押してください。

再生する

VOLUME CONTROL

INPUT SELECTOR ▼/▲

1 再生する機器を選ぶ。

リモコンの各入力ソースキーを押します。
または本体の[INPUT SELECTOR ▼/▲]で選びます。
例：HDMI1入力ソースの場合

2 選んだ機器を操作して再生を始める。

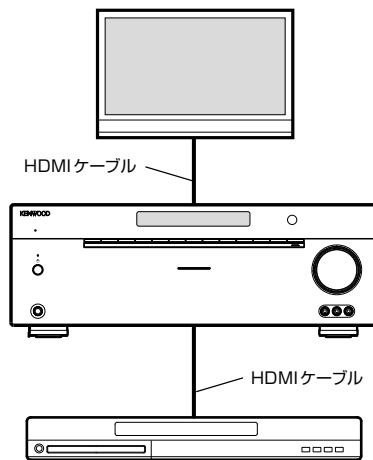
3 [VOLUME △/▽]で音量を調節する。

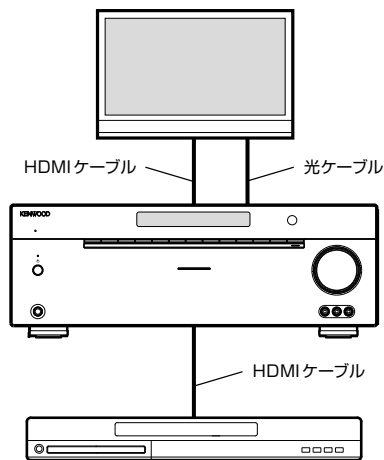
4 色々な臨場感を楽しむ。

さまざまなリッスンモードを楽しむことができます。(「リッスンモードを使ってサラウンド再生を楽しむ」 →39)
また、選んだ入力ソースに合わせて細かい調整もできます。(「再生するソースに合わせた調整」 →44)

ARC（オーディオリターンチャンネル）

オーディオリターンチャンネル（ARC）対応テレビの音声信号を、本機のHDMIモニター端子から入力できる機能です。
HDMI設定の"LINK SET"は"ON"に設定します。

ARCに対応しているTV

ARCに対応していないTV

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していないテレビの場合は、光ケーブルを接続する必要があります。

ARC接続で音が出ないときは....

下記のいずれかの操作をしてください。

・テレビの電源を先に入れてから、レシーバーの電源を入れる。
・レシーバーの電源を切ってから、再度電源を入れる。

入力ソースの音源のままで鑑賞する（ストレートデコードモード）ピュアオーディオモードで音楽を聴く

ストレートデコードモードでは、入力ソースの音源に音場効果を加えずにそのまま出力します。

ピュアオーディオモードでは、ディスプレイを消灯しビデオ回路（HDMI以外）をオフにすることによってオーディオ回路への影響を抑えます。高音質で、より原音に忠実な音を楽しめるモードです。

1 再生したいソースを選ぶ。

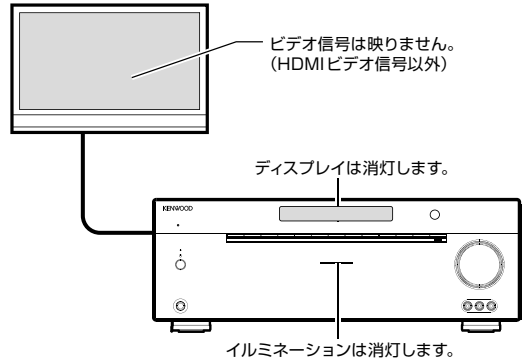
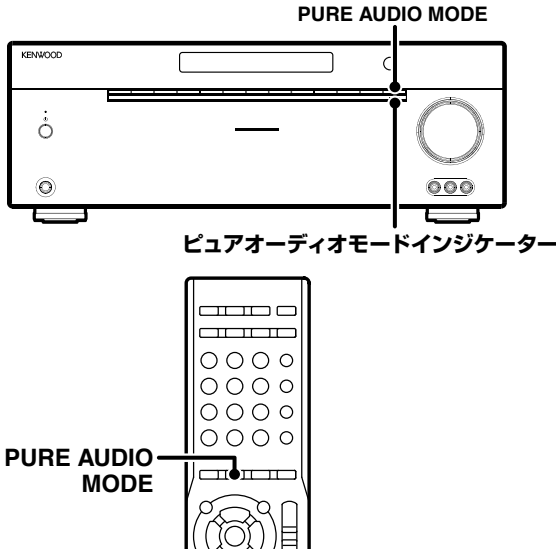
2 再生機器側で再生の操作をする。

3 [PURE AUDIO MODE] を押す。

押すたびに次のようにモードが切り替わります。

モード	表示
ストレートデコードモード	"STRAIGHT"インジケーターが点灯します。
ピュアオーディオモード	ピュアオーディオモードインジケーターが点灯します。
オフ	"STRAIGHT"インジケーターおよび、ピュアオーディオモードインジケーターが消灯します。

ストレートデコードモードおよびピュアオーディオモード時は、リッスンモードは入力信号に合わせて自動的に選択されます。

ピュアオーディオモード時は、ディスプレイは消灯します。
そして、HDMI 入力以外の映像信号はテレビに出力されません。

解除するには

[PURE AUDIO MODE] を押す。

[LISTEN MODE]や[VIRTUAL SURROUND]（本機）、[VIRTUAL]（リモコン）が押されたときにもストレートデコードモードとピュアオーディオモードは解除されます。

- 入力信号の数がお使いのスピーカーより多い場合は、信号はお使いのスピーカーに合わせて自動的に振り分けられます。
- ピュアオーディオモード時は、HDMI入力以外の映像は映りません。

リッスンモード

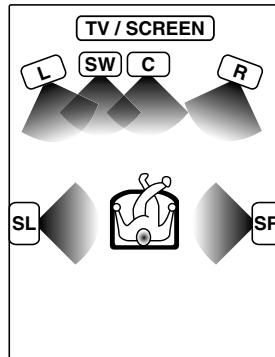
本機のリッスンモードを使って、色々な種類の映像ソフトで臨場感を楽しめます。サラウンドを最適な状態でお楽しみいただくため、ご使用前にスピーカーの設定を行ってください。

音声入力端子		入力信号
HDMI		Dolby TrueHD
		Dolby Digital Plus
		DTS-HD Master Audio
		DTS-HD High Resolution Audio
		PCM（マルチチャンネル）
		DSD
	デジタル入力（光/同軸）	Dolby Digital EX
		Dolby Digital
		DTS-ES（Discrete, Matrix）
		DTS 96/24
		DTS
		PCM（2 チャンネル）
		AAC
音声入力		アナログ

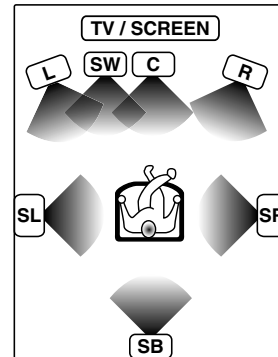
2ch ステレオシステム

リッスンモード

· Stereo

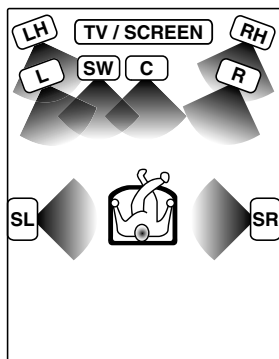
5.1ch サラウンドシステム

リッスンモード

· Dolby Pro Logic II
(Movie, Music, Game)
· Dolby Pro Logic
· Neo:6 (Cinema, Music)
· Stereo

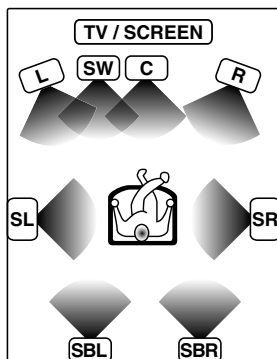
6.1ch サラウンドシステム

リッスンモード

· Dolby Pro Logic IIx
(Movie, Music, Game)
· Dolby Pro Logic
· Dolby EX
· Neo:6 (Cinema, Music)
· Neo:6
· Stereo

つづく

7.1ch サラウンドシステム（フロントハイトスピーカー）

リッスンモード

- Dolby Pro Logic IIz (Height)
- Dolby Pro Logic II (Movie, Music, Game)
- Dolby Pro Logic
- Neo:6 (Cinema, Music)
- Stereo

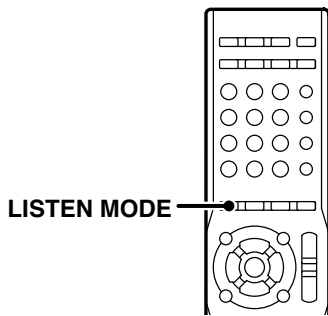
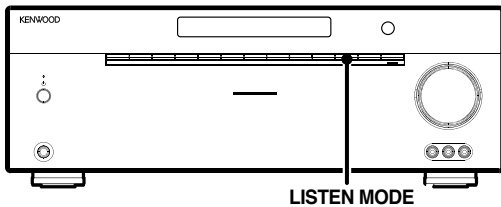
7.1ch サラウンドシステム（サラウンドバックスピーカー）

リッスンモード

- Dolby Pro Logic IIx (Movie, Music, Game)
- Dolby Pro Logic
- Dolby EX
- Neo:6 (Cinema, Music)
- Neo:6
- Stereo

L : 左フロントスピーカー
LH : 左フロントハイトスピーカー
SW : サブウーファー
C : センタースピーカー
R : 右フロントスピーカー
RH : 右フロントハイトスピーカー
SL : 左サラウンドスピーカー
SR : 右サラウンドスピーカー
SB : サラウンドバックスピーカー
SBL : 左サラウンドバックスピーカー
SBR : 右サラウンドバックスピーカー

- 入力信号により、選択できないリッスンモードがあります。

リッスンモードを使ってサラウンド再生を楽しむ

再生するソースに合わせてリッスンモードを選びます。

準備をしましょう

- 使用する機器の電源をオンにする。
- 「スピーカーの設定」を確認する。
- 再生するソースを選ぶ。
- 入力モードの設定をする。→34
  (入力モードが"AUTO"に設定されていると("AUTO DETECT"インジケーターが点灯)、入力信号のタイプやスピーカーの設定に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。また入力モードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズが出ることがあります。)

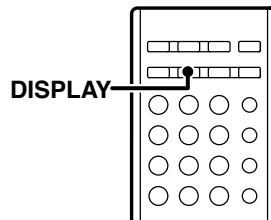
1 選んだソースを再生する。

2 [LISTEN MODE] で、リッスンモードを選ぶ。

押すたびにリッスンモードが切り換わります。

接続機器からの音声入力信号を確認する

● リモコンのみで操作できます。

接続機器からの音声入力信号とそのチャンネル数を確認できます。

1 [DISPLAY] を押す。

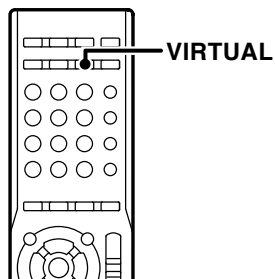
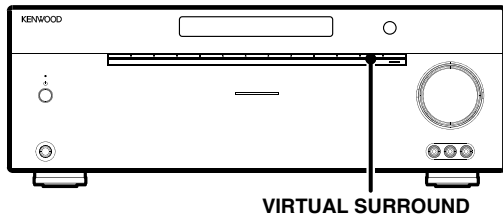
HDMIの入力信号とそのチャンネル数がスクロール表示されます。

例 : DTS 5.1チャンネルの場合

- 入力信号とそのチャンネル数を表示した後に、表示は入力ソース名に切り替わります。

臨場感を楽しむ

バーチャルサラウンドモード

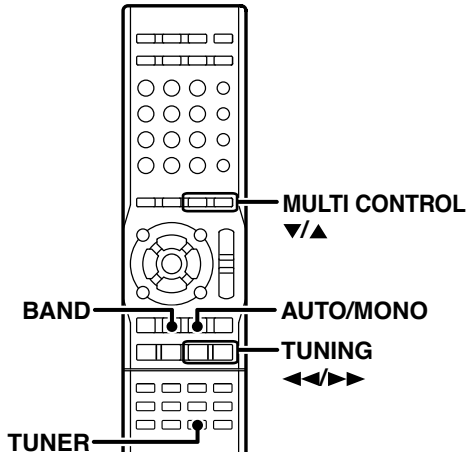
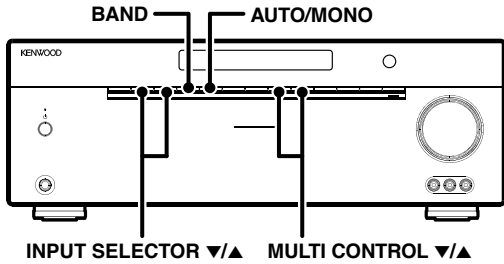
フロントスピーカーだけ接続しているときでも臨場感あふれるサウンドを楽しむことができるモードです。

1 [VIRTUAL SURROUND]（本機）または[VIRTUAL]（リモコン）を押す。

押すたびに以下のように切り換わります。

表示	設定
"VS ON"	バーチャルサラウンドモードをオンにします。
"VS OFF"	バーチャルサラウンドモードをオフにします。

ラジオ放送を受信する

本機はラジオ放送を最大40局まで記憶することができます。また記憶させた放送局を簡単に呼び出せます。

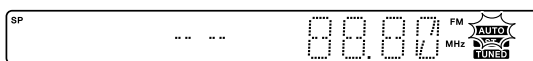
ラジオ放送の受信には、必ずアンテナを接続してください。(「アンテナの接続」→24)

1 入力ソースをTUNERにする。

2 [BAND]を押して、放送バンドを選ぶ。

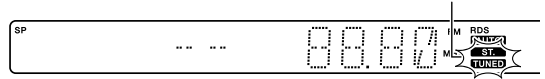
押すたびに放送バンドが切り換わります。
① **FM**
② **AM**

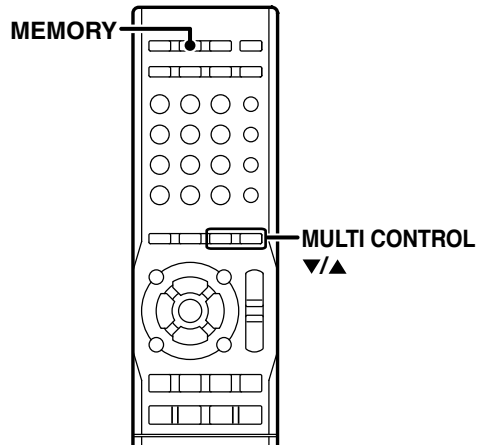
3 [AUTO/MONO]を押して選局方法を選ぶ。

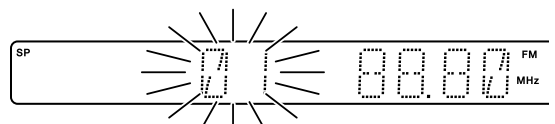
押すたびに選局方法が切り換わります。

設定	動作	表示
オート選局	受信できる放送局を自動的に選びます。	"AUTO"が点灯
マニュアル選局	手動で放送局を選びます。	"AUTO"は消灯

通常はオート選局にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときにはマニュアル選局にします。マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。

4 [TUNING ◄◄/►►]で放送局を選ぶ。

放送局を受信すると"TUNED"が点灯します。
ステレオ放送を受信すると"ST."が点灯します。

・ [MULTI CONTROL ▼/▲]でも放送局を選べます。

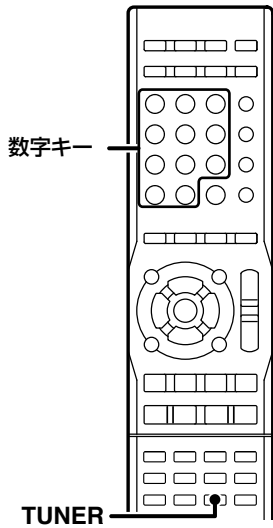
放送局をプリセットする

1 プリセットしたい放送局を受信する。

2 受信中に[MEMORY]を押す。

20 秒以内に手順3へ進みます。
20秒以上経った場合は、もう一度[MEMORY]を押してください。

3 [MULTI CONTROL ▼/▲]でプリセット番号 (01 ~ 40)を選ぶ。

4 [MEMORY]を押して確定する。

手順1から4を繰り返して、他の放送局をプリセットします。
同じプリセット番号に重ねて記憶させると、新しい内容に変更できます。

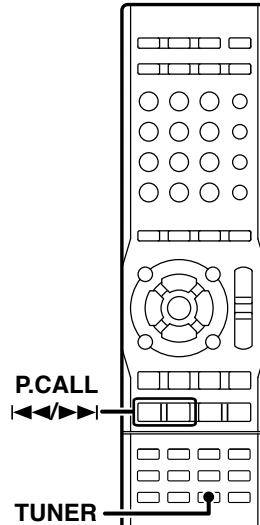
プリセットした放送局を受信する

1 入力ソースをTUNERにする。

2 受信したい放送局のプリセット番号を押す（最大"40"まで）。

数字キーを押す順序は：
プリセット番号15なら：[+10]、[5]
プリセット番号20なら：[+10]、[+10]、[0]

プリセット番号

- 10の桁を押し間違えたときは、[+10]を数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

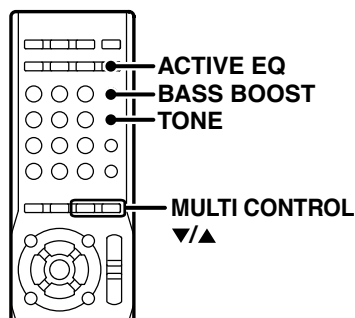
プリセットした放送局を順に聴く（P.CALL）

1 入力ソースをTUNERにする。

2 [P.CALL ⏮/⏭]で選局する。

キーを押すたびにプリセットされている放送局が順に切り換わります。
[P.CALL ⏮/⏭]を押したままにすると、約0.5秒間隔で放送局をスキップします。

ラジオ放送を聴く

音を調節する

ACTIVE EQ
BASS BOOST
TONE
MULTI CONTROL ▼/▲

Active EQ モード

● リモコンのみで操作できます。

用途に合わせて最適な音場効果を楽しめます。

1 [ACTIVE EQ] を押してモードを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

表示	設定
"A-EQ MUSIC"	音楽を聴くのに最適なモードです。
"A-EQ CINEMA"	映画を観るのに最適なモードです。
"A-EQ GAME"	ゲームを楽しむときに最適なモードです。
"A-EQ OFF"	Active EQ をオフにします。

バスブースト

● リモコンのみで操作できます。

入力信号がPCMかアナログのときで本機のリッスンモードがステレオのとき、またActive EQモードがオフのときに設定できます。

1 [BASS BOOST] を押す。

BASS(低音)レベルが最大値(+10)に設定されます。
トーンが自動的にオンになります。

解除するには

[BASS BOOST] を押す。

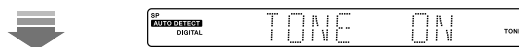
トーンレベル

● リモコンのみで操作できます。

入力信号がPCMかアナログのときで本機のリッスンモードがステレオのとき、またActive EQモードがオフのときに設定できます。

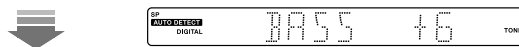
1 [TONE] を押す。

2 トーンレベルを調節するかしないか選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で "TONE ON" または "TONE OFF" を選ぶ。

[ENTER]

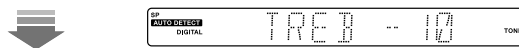
表示	設定
"TONE ON"	トーンレベルを調整します。手順3に進みます。
"TONE OFF"	トーンレベルは調整しません。

3 "BASS" (低音域) を調節する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で好みのレベルにする。

[ENTER]

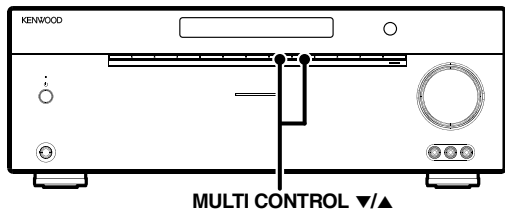
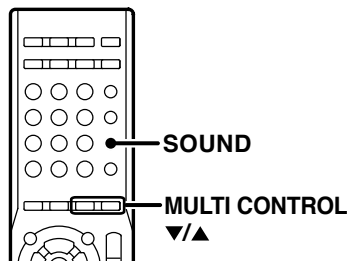
-10 ～ +10の範囲で調節できます。

4 "TREB" (高音域) を調節する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で好みのレベルにする。

[ENTER]

-10 ～ +10の範囲で調節できます。

再生するソースに合わせた調整

再生しているソースに合わせてお好みで音を調整することができます。

1 [SOUND] を押してサウンド調整モードに入る。

押すたびに以下のように切り換わります。
いくつかの項目はスピーカー設定やリッスンモードによっては表示されません。

表示	設定項目	設定範囲	
"LH"	左ハイトスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	*1
"C"	センタースピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"RH"	右ハイトスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SR"	右サラウンドスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SBR"	右サラウンドバックスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SB"	サラウンドバックスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SBL"	左サラウンドバックスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SL"	左サラウンドスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SW"	サブウーファーレベル	-10 ～ +10dB	
"INPUT"	入力レベル	-6、-3、0	*2
"MIDNIGHT"	ミッドナイトモード	"AUTO"、"ON"、"OFF"	*3
"PANORAMA"	パノラマモード	"ON"、"OFF"	*4
"DIMENSION"	ディメンション		
"CENTER WIDTH"	センター幅		
"CENTER IMAGE"	センターイメージ	0.0 ～ 1.0	*5

*[1] スピーカーレベルの調整は一時的な設定です。電源のオン/オフや入力ソースの切り換えをすると、スピーカー設定で調整した値に戻ります。

*[2] アナログ入力のみ。

*[3] Dolby TrueHD信号、Dolby Digital Plus信号、Dolby Digital信号、DTS-HD信号およびDTS信号のみ。"AUTO"はDolby TrueHD信号のみ設定できます。

*[4] Pro Logic IIx MusicモードおよびPro Logic II Musicモードのみ。

*[5] Neo:6 Musicのみ。

- "CENTER WIDTH"および"CENTER IMAGE"はセンタースピーカーを設置している時のみ選択できます。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] で設定したい項目の調整をする。

詳しい設定のしかたは、各項目の説明を参照してください。

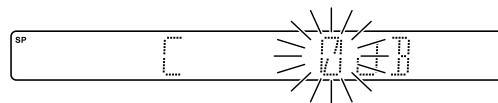
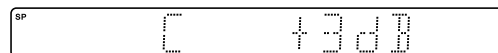
サウンド調整モードをやめるには

[SOUND] を押す。

スピーカーレベルの調整

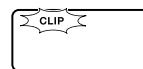
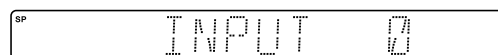
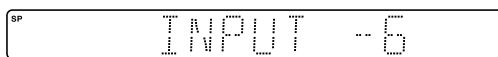
再生しているソースに合わせてスピーカーレベルの詳細な設定ができます。

この調整は現在の入力ソースにのみ有効です。電源のオン/オフや入力ソースの切り換えをすると、スピーカー設定で調整した値に戻ります。

1 [SOUND]を繰り返し押して調整したいスピーカーを選ぶ 。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] でレベルを調整する。

3 手順1と2を繰り返して他のスピーカーのレベルを調整する。

入力レベルの調整

● アナログソースのみ。

アナログ入力信号の入力レベルが高すぎる場合には、CLIPインジケーターが点灯します。入力レベルを調整してください。

1 [SOUND] を繰り返し押して "INPUT" を選ぶ。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] で入力レベルを調整する。

パノラマ

● Pro Logic IIx Music およびPro Logic II Music モードのみ。

フロントチャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで広げることで前方の音の広がりを作ります。

1 [SOUND] を繰り返し押して "PANORAMA" を選ぶ。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] で "ON" または "OFF" を選ぶ

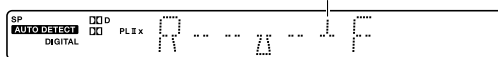
① "ON": パノラマモードオン
② "OFF": パノラマモードオフ

ディメンション

● Pro Logic IIx Music およびPro Logic II Music モードのみ。

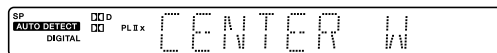
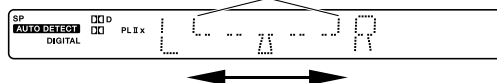
音場の中心を前方または後方へ移動させて調整します。

1 [SOUND] を繰り返し押して "DIMENSION" を選ぶ。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] で音場を前後に調節する。

センター幅

● Pro Logic IIx Music およびPro Logic II Music モードのみ。

センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーに振り分けて前方の音の幅を広げます。

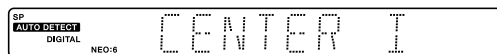
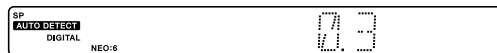
1 [SOUND] を繰り返し押して "CENTER WIDTH" を選ぶ。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] で音場を左右に調節する。

インジケーターが左右へ広がるほど、より多くのセンターチャンネルの音声が左右のフロントスピーカーに振り分けられます。

- センタースピーカーの設定がオフの場合は、本設定はできません。

センターイメージ

● DTS Neo:6 Music モードのみ。

センタースピーカーの出力を調整します。

1 [SOUND] を繰り返し押して "CENTER IMAGE" を選ぶ。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] でセンタースピーカーの出力を調節する。

数字が大きくなるほど、より多くのセンターチャンネルの音声が左右のフロントスピーカーに振り分けられます。

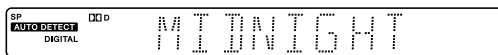
- センタースピーカーの設定がオフの場合は、本設定はできません。

ミッドナイトモード

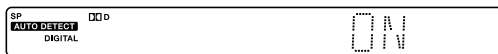
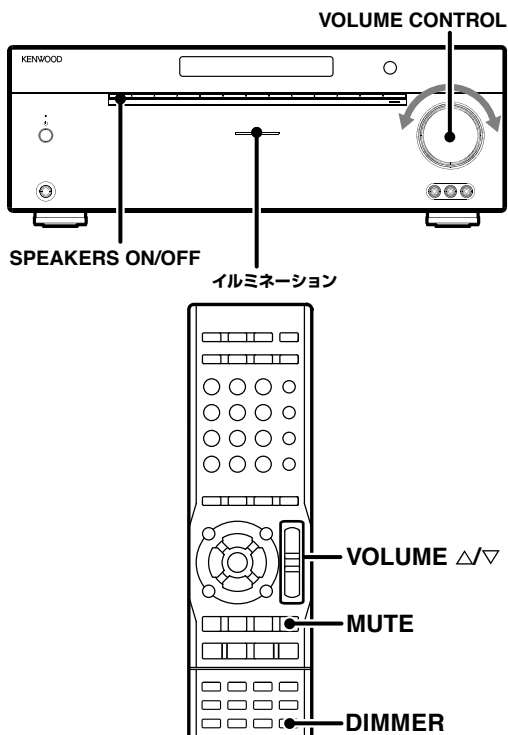
● Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital、DTS-HDおよびDTSモードのみ。

夜中に映画を観るときなど、音量を大きくできないことがあります。ミッドナイトモードはDolby TrueHD や Dolby Digital Plus、Dolby Digital、DTS-HD、DTSの映像ソフトであらかじめ指定されている部分（急に音量が大きくなるシーンなど）について音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、他の部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。

1 [SOUND]を繰り返し押して"MIDNIGHT"を選ぶ。

SP
AUTO DETECT
DIGITAL
MIDNIGHT

2 [MULTI CONTROL ▼/▲]で"AUTO"または"ON"または"OFF"を選ぶ。

① "AUTO"* : ミッドナイトモード オート
② "ON": ミッドナイトモード オン
③ "OFF": ミッドナイトモード オフ

* "AUTO"はDolby TrueHDのときのみ選択できます。

• Dolby TrueHD や Dolby Digital Plus、Dolby Digital、DTS-HD、DTS のソフトウェアの中にはミッドナイトモードに対応していないものもあります。

ディスプレイの明るさを変える

● リモコンのみで操作できます。

本機のディスプレイの明るさを調節できます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

1 [DIMMER] を押す。

明るさが3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。

① やや暗い
② 暗い
③ 通常の明るさ

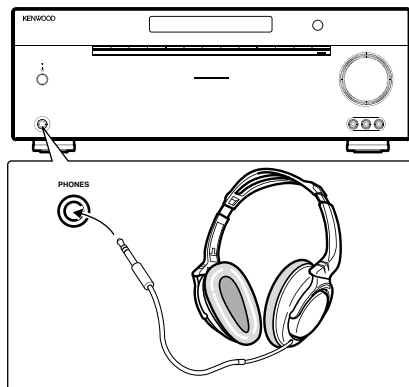
• 暗いに設定すると、イルミネーションがオフします。

ヘッドホンで聴く

1 スピーカーインジケーターを消すために、[SPEAKERS ON/OFF] を押す。

ディスプレイの "SP" インジケーターが消灯します。

サラウンドモードの時にスピーカーをオフにすると、サラウンドモードも解除されてステレオ再生になります。

2 ヘッドホンをフロントパネルのPHONES端子（6.3mmステレオプラグ）に差し込む。

3 音量を調節する。

一時的に音を消す

● リモコンのみで操作できます。

1 [MUTE] を押す。

ディスプレイの "MUTE" インジケーターが点滅します。

MUTE を解除するには

ミュート中に [MUTE] を押す。

音量の調節をしてもミュートは解除されます。

ケンウッドのDVDプレーヤーをリモコンで操作する

本機に付属のリモコンでケンウッド製のDVDプレーヤーを操作できます。

対応DVDプレーヤー

DVF-7060、DVF-3070、DVF-8100

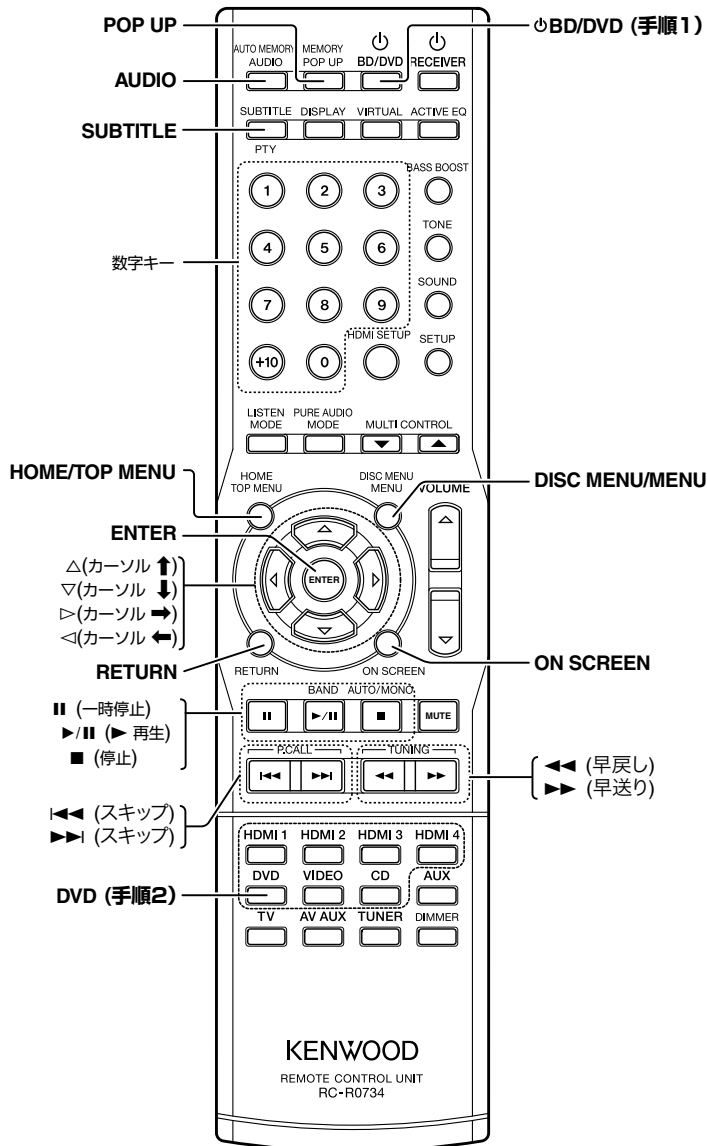
DVDプレーヤーの操作のしかた

1 [⏻ BD/DVD] を押してDVDプレーヤーの電源をオンにする。

2 [DVD] を押して入力ソースをBD/DVDにする。

[DVD] を押すことにより、リモコンでDVDプレーヤーの操作ができるようになります。
[HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3]、[HDMI4]、[VIDEO] および [CD] を押してもDVDプレーヤーの操作ができます。

3 本機のリモコンでDVDプレーヤーを操作する。

DVDプレーヤーの操作キー

便利な機能

故障かな?と思ったら

アンプ部

症状	原因	処置
音が出ない。	スピーカーや関連機器が正しく接続されていない。	「接続のしかた」を参照して正しく接続し直す。 →15 〜 →25
	音量を最小にしている。	適当な音量にする。
	MUTEがオンになっている。	MUTEを解除する。 →47
	スピーカースイッチがオフになっている。	スピーカースイッチをオンにする。→34
	正しい入力ソースが選択されていない。	視聴したい入力ソースを選択する。
	入力モードが正しく設定されていない。	「入力モードの設定」を参照して、正しい入力モードを選択する。 →34
	接続のしかたや接続機器によっては音声信号が出力されない場合があります。	接続する機器に付属の取扱説明書を参照してください。
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	スピーカーコードがショートしている。	電源スイッチをオフにし、ショートを取り除き、再度電源を入れる。ショートを取り除いた後もスタンバイインジケーターが点滅している場合は、故障が考えられます。電源を切り、お近くのサービスセンターにご相談ください。
いずれかのスピーカーから音が出ない。	スピーカーコードが外れている。	「スピーカーの接続」を参照して、正しく接続し直す。 →16 〜 →17
	スピーカーが正しく設定されていない。	「スピーカーの設定」を参照して、正しく設定し直す。 →26 〜 →28 設定し直した後、テストトーンが出るか確認してください。
	リッスンモードによっては音が出ないスピーカーがあります。	-----
希望する信号フォーマットで聴くことができない。(Dolby Digital、DTSまたはAAC)	Dolby Digital、DTSまたはAACの入力信号フォーマットで聴くためには、デジタル接続が必要です。	「接続のしかた」を参照してデジタル入力端子またはHDMI入力端子に接続されているか確認する。 →15 〜 →25
	再生機器の設定がデジタル出力になっていない。	再生機器の取扱説明書を参照して、音声出力の設定を確認する。
Dolby Digital、DTSまたはAACのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	再生機器の種類によって、いろいろな原因があります。	入力モードを"AUTO"にしてからソースを再生する。 →34
DVDを再生しても音が出ない。	入力モードがマニュアルに設定されている。	「入力モードの設定」を参照して"AUTO"を選ぶ。 →34
デジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	デジタルチューナーのデジタル出力設定がAACになっていない。	デジタルチューナーのデジタル出力の設定をAACにする。
デジタル放送の音声切り換えができない。	放送によっては音声は本機では切り換えることができません。	デジタルチューナー側で音声を切り換える。
ディスプレイが消灯している。	ピュアオーディオモードがオンになっている。	ピュアオーディオモードがオンのときは、ディスプレイはオフになります。ピュアオーディオモードをオフにしてください。 →36
自動でパワーオフする。	APSがオンしている。	APSをオフする。 →30
入力セレクタでテレビを選択すると音がでない。	ARC対応のテレビでない。	ARC対応テレビのHDMI端子に接続する。 →35
	HDMI端子がARC対応でない。	ARC対応のHDMI端子に接続する。
	HDMIリンクがオフになっている。	HDMIリンクをオンにする。 →32

つづく

症状	原因	処置
映像が出ない。または乱れる。	映像機器が正しく接続されていない。	「接続のしかた」を参照して正しく接続し直す。 →15 ～ →25 映像機器と本機をHDMI接続している場合は、映像信号はHDMIモニター出力端子からのみ出力されます。
	接続のしかたや接続機器によっては映像信号が出力されない場合があります。	接続する機器に付属の取扱説明書を参照してください。
	テレビ側での入力が合ってない。	テレビ側の入力を確認する。
	NTSC以外の信号が入力されている。	映像再生機器の映像切換えをNTSCにする。映像再生機器の取扱説明書をご覧ください。
	ピュアオーディオモードがオンになっている。	ピュアオーディオモードがオンのときは、ビデオ回路がオフになり、HDMI映像入力以外は出力されません。ピュアオーディオモードをオフにしてください。 →36

チューナー部

症状	原因	処置
放送局が受信できない。	アンテナを接続していない。	アンテナを接続する。 →24
	放送バンドが合っていない。	放送バンドを合わせる。 →41
	受信したい放送局の周波数に合っていない。	受信したい放送局の周波数に合わせる。 →41
雑音が入る。	自動車のイグニッションノイズ。	屋外アンテナを道路から離して設置する。
	他の電気機器の影響によるもの。	電気機器の電源を切ってみる。
	テレビが近くにある。	アンテナをテレビからできるだけ離して設置する。

リモコン部

症状	原因	処置
リモコンで操作できない。	操作したいソースのモードになっていない。	操作したいソースの入力ソースキーを押してから、操作キーを押す。
	ケンウッドのDVDプレーヤーのソースのモードになっていない。	[DVD]キーを押してDVDモードにしてから操作キーを押す。 →48
	電池切れ。	新しい電池と交換する。 →13
	操作する位置が遠すぎる、または角度がずれている。	操作範囲内で操作する。 →14
	本機とリモコンの間に障害物がある。	障害物を取り除く。

マイコンをリセットするには

操作できない、ディスプレイが正常に点灯しない、または「故障かな?と思ったら」を参照しても問題が解決しない場合は、マイコンをリセットしてください。

電源プラグを抜き、本体の [⏻] を押しながら再度差し込む。

リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります、ご了承ください。

用語集

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズによって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格です。モノから5.1チャンネルまでの高品質なデジタル音声を、通常のPCM音声の数分の一のデータ量で伝送・記録できます。以下の機能が特徴です。
- モノ、ステレオ、プロロジック対応の構成および5.1チャンネル音声の再生に最適なダウンミキシング
- ダイナミックレンジおよび会話のレベル調整に関する情報をデコーダに伝達する機能
- 広範囲のビットレートにわたる動作

Dolby Digital EX/Dolby EX

ドルビーデジタルにバックサラウンドチャンネルを追加することにより、さらなる臨場感と包囲感のあるサラウンド効果を実現します。

Dolby Pro Logic II

ドルビーラボラトリーズによって開発されたマトリックスデコード技術です。あらゆるステレオ音源から臨場感豊かな5チャンネルサラウンド音声を生成します。CDのような通常のステレオ音楽素材にも、優れた立体音場効果を実現することができます。また、映画の再生に適した「Movie」モード、音楽の再生に適した「Music」モード、ゲームを楽しむときに最適な「Game」モードがあります。

Dolby Pro Logic IIx

Dolby Pro Logic IIをさらに改良したマトリックスデコード技術です。あらゆるステレオまたは5.1チャンネルの音声トラックから7.1チャンネルサラウンド音声を生成し、より自然でなめらかなサラウンド音場の再生ができます。また、映画の再生に適した「Movie」モード、音楽の再生に適した「Music」モード、ゲームを楽しむときに最適な「Game」モードがあります。

Dolby Pro Logic IIz

Dolby Pro Logic IIzは、左右のフロントスピーカーの上方にハイト（高さ）スピーカー追加で、7.1チャンネルへの拡張を可能にします。これにより、目の前に広がるような深みのあるサラウンドサウンド体験が実現します。

Dolby Digital Plus

ドルビーデジタルを高音質・高機能に進化させた音声技術です。各チャンネルが完全に独立したマルチチャンネルサラウンドサウンドになっています。対応ビットレートはDolby Digital の 96～640kbps に比べて、32kbps～6Mbpsに対応しています。

また優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大7.1チャンネルの高品質なデジタルサラウンド音声を実現することが可能です。既存のドルビーデジタル搭載のホームシアターシステムとの互換性も確保しています。

Dolby TrueHD

ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）音声技術です。スタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現します。96 kHzのサンプリング周波数では最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数では最大5.1チャンネルに対応しています。

Dolby Virtual Speaker

2本のスピーカーだけを使って、理想的な5.1チャンネルのホームシアター環境を生成するスピーカーバーチャル技術です。

AAC

「Advanced Audio Coding（アドバンスド オーディオ コーディング）」の略称です。デジタル放送などに使用されている画像圧縮規格（MPEG-2やMPEG-4）で使われる音声圧縮方式です。サンプリング周波数は最大96kHzまでに対応しています。

DTS Digital Surround

DTS社によって開発されたデジタルサラウンドフォーマットです。低圧縮で高音質となっているのが特徴で、再生チャンネル数は最大5.1チャンネルです。

DTS-ES

DTS Digital Surround にサラウンドバックチャンネルを追加した6.1チャンネルの音声フォーマットです。

従来のDTS 5.1ch対応機器でも再生できます。DTS-ESにはDTS-ES MatrixとDTS-ES Discrete 6.1の2種類の形式があります。

DTS-ES Matrix

DTS 5.1chに追加されるサラウンドバックチャンネル音声の収録を、サラウンドの2チャンネルに振り分けて行い、デコード時にサラウンドバックチャンネル音声を復元して、6.1chを生成します。

DTS-ES Discrete

DTS 5.1chに追加されるサラウンドバックチャンネル音声を、独立して収録します。

DTS Neo:6

DTS社によって開発されたマトリクスデコード技術です。あらゆる2チャンネルソースから最大6.1チャンネルを生成します。映画の再生に適した「DTS Neo:6 CINEMA」モードと音楽の再生に適した「DTS Neo:6 MUSIC」モードがあります。

DTS 96/24

DTS 5.1ch よりもさらに進化した5.1チャンネルデジタル音声フォーマットです。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24ビットの高音質再生が可能です。従来のDTS 5.1ch対応機器でも再生できます。

DTS－HD Master Audio

DTS社によって開発されたロスレス（可逆型）音声技術により、スタジオマスターと同じ音質を再現できます。サンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24ビットで、最大7.1チャンネルに対応しています。また、7パターンにも及ぶスピーカー配置に対応しており、ユーザー側のさまざまなオーディオ再生環境においてコンテンツ製作者の意図するサウンドを届けることが可能となっています。

DTS-HD High Resolution Audio

それまでのDTSオーディオフォーマットの拡張形式で、サンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24ビットの音声を7.1チャンネルで収録できます。DTS-HD High Resolution Audio を使用して記録したマルチチャンネルサウンドは、DVD-Video の音声に比べて、細部まで鮮明にかつリアルに再生されます。また、7パターンにも及ぶスピーカー配置に対応しており、ユーザー側のさまざまなオーディオ再生環境においてコンテンツ製作者の意図するサウンドを届けることが可能となっています。

DTS-HD Low Bit Rate

DTS-HDのオーディオフォーマットのうち、インターネットなどの通信向けのロービットレートモードです。

PCM

PCM（パルス符号変調）は、圧縮なしでデジタル的に音声信号をコード化する方法です。

DSD (Direct Stream Digital)

DSDはSuper Audio CD（SACD）で採用されている、音声フォーマットです。

HDMI

「High-Definition Multimedia Interface（ハイ-ディフィニション　マルチメディア　インターフェース）」の略称です。DVI (Digital Visual Interface)をベースにさらに発展させた規格で、たった1本のケーブルで非圧縮のデジタル映像とマルチチャンネルデジタル音声を伝送できます。

本機はHDMIの以下のオプション機能に対応しています。

• Deep Color

カラーコンポーネントあたり通常の８ビットを超える10ビットや12ビットの映像信号を伝送することにより、より豊かな階調表現が可能です。

• x.v.Color

sRGB色空間の約1.8倍の多彩な色が再現できます。

• Lip Sync

テレビモニター映像の遅延時間を自動的に取得し、アンプで映像と音声の同期を行います。

• ARC（オーディオリターンチャネル）

ARC機能対応のテレビとHDMIケーブル一本の接続で、テレビの音声信号をAVレシーバーで再生することができます。ARC機能により、従来必要だった、TVとAVレシーバーの間の音声ーケーブルを減らすことが出来ます。

• HDMIを通じての3D映像へ対応

HDMI Licensing, LLC. で必須と規定されている、3D映像のスルー出力に対応しています。

DVI

「Digital Visual Interface（デジタル　ビジュアル　インターフェース）」の略称です。PCとディスプレイの接続標準規格です。

HDCP

「High-bandwidth Digital Contents Protection（ハイーバンドウィズ　デジタル　コンテンツ　プロテクション）」の略称です。映像コンテンツが不正にコピーされるのを防ぐ著作権保護技術です。DVIやHDMIのデジタルインターフェースの暗号化に使われています。

保証とアフターサービス

必ずお読みください

保証について

● 保証書

この製品には、保証書を添付しております。

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

● 保証期間

お買上げの日より1年です。

電池や一部の一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 修理に関するご相談・ご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。お問い合わせ先は「ケンウッド全国サービス網」をご覧ください。

● 補修用性能部品の最低保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しています。

補修用性能部品とは、その製品を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお問い合わせください。(「ケンウッド全国サービス網」をご参照ください。)

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

● 保証期間中は…

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターが修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。

本機以外の原因(衝撃や水分、異物の混入など)による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後は…

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにご相談ください。修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 出張修理/持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号 (Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください。)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

● 修理料金の仕組み

有料修理の場合は、次の料金をいただきます。

- 技術料:製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。
  技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。
- 部品代:修理に使用した部品代です。
  その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。
- 出張料:製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

ケンウッド全国サービス網

2010年8月現在

使いかたや製品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートサポートセンターをご利用ください。

修理などアフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービスセンターにお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〠004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29	☎(011) 807-3003

東北			
仙台サービスセンター	〠984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13	☎(022) 287-0151

関東・信越			
さいたまサービスセンター	〠331-0812	さいたま市北区宮原町1-202	☎(048) 778-8714
千葉サービスセンター	〠277-0863	柏市豊四季512-10-67	☎(04) 7171-3800
横浜サービスセンター	〠226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎(045) 939-6242
新潟サービスセンター	〠950-0913	新潟市中央区鐙1-5-23	☎(025) 245-2177
大田サービスセンター (修理持込専用窓口)	〠146-0082 電話でのお問い合わせは、当社カスタマーサポートセンターにて承ります。	東京都大田区池上2-8-10 プラムビル1F	

中部・甲州			
名古屋サービスセンター	〠481-0041	北名古屋市九之坪鴨田121-1	☎(0568) 24-1644
静岡サービスセンター	〠420-0816	静岡市葵区沓谷5-61-1	☎(054) 262-8700
金沢サービスセンター	〠921-8062	金沢市新保本4-65-17	☎(076) 269-2935

近畿・四国			
大阪サービスセンター	〠532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28	☎(06) 6390-8005
高松サービスセンター	〠761-8057	高松市田村町205-1	☎(087) 802-6055

中国			
広島サービスセンター	〠730-0825	広島市中区光南3-9-17	☎(082) 241-0023

九州			
福岡サービスセンター	〠812-0031	福岡市博多区沖浜町11-10 サンイースト福岡1F	☎(092) 283-6675
鹿児島サービスセンター	〠891-0114	鹿児島市小松原1-5-17	☎(099) 268-0030
沖縄サービスセンター	〠901-2224	宜野湾市真志喜1-11-12 コモンズビル1F	☎(098) 898-3631

● サービスセンターの営業時間のご案内

受付時間 10:00～18:00（土曜、日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます）
（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。）

● カスタマーサポートセンター

ナビダイヤル: 0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP電話からは 045-450-8960
FAX: 045-450-2287
住所: 〒221-8528 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12
受付時間: 月曜～金曜 9:30～18:00
土曜 9:30～12:00、13:00～17:30
（日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます）

定格

オーディオ部

ステレオモード

定格出力（63 Hz ～ 20.0 kHz、0.7%、6 Ω）.................100 W + 100 W

サラウンドモード（1ch動作時）

実用最大出力

フロント...................150 W/ch（JEITA 6 Ω）

センター...................150 W（JEITA 6 Ω）

サラウンド...................150 W/ch（JEITA 6 Ω）

全高調波歪率...................0.01%（1 kHz、50 W、6 Ω）

周波数特性

DVD、CD、AUX、VIDEO...........10 Hz ～ 70 kHz, + 0 dB ～ -3 dB

SN比（IHF'66）

DVD、CD、AUX、VIDEO...................100 dB（JEITA）

入力端子（感度/インピーダンス）

DVD、CD、AUX、VIDEO...................500 mV / 47 kΩ

AV AUX...................500 mV / 26 kΩ

出力端子（レベル/インピーダンス）

サラウンドバック/フロントハイトプリアウト...................1.1 V / 100 kΩ

サブウーファープリアウト...................2.0 V / 100 kΩ

トーン コントロール特性

BASS...................±10 dB（100 Hz）

TREBLE...................±10 dB（10 kHz）

デジタルオーディオ部

入力端子

光...................CD、VIDEO

同軸...................DVD

ビデオ部

ビデオ入力感度／インピーダンス（DVD、VIDEO、AV AUX）

ビデオ（コンポジット）...................1 Vp-p / 75 Ω

ビデオ出力レベル／インピーダンス（モニター）

ビデオ（コンポジット）...................1 Vp-p / 75 Ω

HDMI部

HDMI入力端子...................HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4

HDMI出力端子...................モニター

FM チューナー部

受信周波数範囲...................76 MHz ～ 90 MHz

AM チューナー部

受信周波数範囲...................531 kHz ～ 1,602 kHz

電源部・その他

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示）...................200 W

待機時消費電力（HDMIリンク オフ時）...................0.5 W以下

最大外形寸法...................幅：430 mm

...................高さ：159 mm

...................奥行：384 mm

重量（正味）...................9.0 kg

本製品は「JIS C61000-3-2適合品」です。

1. これらの定格およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

お電話による使いかた・商品に関するご相談

カスタマーサポートセンター

受付時間　月曜日～金曜日　**9:30 ～ 18:00**
　　　　　土曜日　　　　　**9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 17:30**
　　　　　※日曜、祝日及び当社休日を除く

※一般電話･公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

- 携帯電話、PHS、IP 電話からは **045-450-8960**
- FAX　**045-450-2287**

ホームページのサポート情報について

製品に関する一般的なご質問などをホームページにて、情報提供しています。ご活用ください。

http://www.kenwood.co.jp/faq/

修理などアフターサービスについて

お買い上げの販売店か、「**ケンウッド全国サービス網**」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3